

目 次

【2 年前期・通年】		【2 年後期】	
社会的養護Ⅰ	83～86	子ども家庭支援論	138～140
保育内容（人間関係）	87～91	保育内容（健康）	141～144
保育内容（音楽表現）	92～95	保育内容（環境）	145～148
子どもと環境	96～98	保育内容（言葉）	149～151
乳児保育Ⅱ	99～101	特別支援教育Ⅱ	152～155
特別支援教育Ⅰ	102～105	社会的養護Ⅱ	156～159
保育実習Ⅰ（施設）	106～108	相談支援	160～163
在宅保育 ＜通年＞	109～111	保育・教職実践演習	164～167
保育・教育基礎研究Ⅲ	112～114	教育方法論	168～170
＜通年＞		医療保育	171～173
音楽表現Ⅳ ＜通年＞	115～118	保育・教育基礎研究Ⅳ	174～177
保育実習Ⅱ	119～120	絵画・造形	178～180
保育実習Ⅲ	121～122	ピアヘルピングの基礎	181～182
保育実習指導Ⅱ ＜通年＞	123～126		
保育実習指導Ⅲ ＜通年＞	127～130		
教育実習Ⅱ	131～132		
教育インターンシップ	133～134		
＜通年＞			
レクリエーション実技	135～137		
＜通年＞			

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必修	単位数
社会的養護Ⅰ		下木 猛史		2	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2202	
		担当教員	下木 猛史					

【キーワード】		【概要】	
1	要保護児童	社会的養護Ⅰでは、社会的養護を学ぶ上で必要となる基礎知識について学ぶ。内容としては、①社会的養護の理念と概念、②社会的養護の歴史、③社会的養護の制度と法体系、④施設における子どもの社会的養護、⑤社会的養護の運営と管理、⑥施設養護の職員について学習し、理解することを目的とする。	
2	家庭的養護		
3	児童福祉		
4	施設養護		
5	権利擁護		

【到達目標】	
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解できる。	
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できる。	
3. 社会的養護の制度や法体系、対象や形態、関係する専門職等について理解できる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	取り組み姿勢・受講態度	ミニレポート・課題・テスト	合計
評価割合（％）	30%	70%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
毎回振り返りの時間を作り、ミニレポートに記入させ、疑問・質問がある場合はミニレポートに書かせて、次の講義で返却、解説する。または直接学生にミニレポートを介して回答する。	

【教科書】	
『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚編著、萌文書林、2024	

【参考書・参考資料等】	
『福祉・保育小六法2024年版』福祉・保育小六法編集委員会編、みらい、2024	
『学ぶ・わかる・みえる 保育と社会的養護Ⅰ（第2版）』大竹 智編、みらい、2024	

【関連科目】	
社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅱ、特別支援教育Ⅰ・Ⅱ、保育実習（施設）	

【受講心得】			
授業をしっかりと聞き、配布されたプリントを整理保管しておくこと。			
【備考】			
卒業必修科目、保育士資格の必修科目			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 現代社会と社会的養護		(1) 学習内容 ・社会的養護の概念を知り、関連する社会問題について考える。 (2) 事前学習の内容 ・教科書の目次を読んでどんな内容か把握しておくこと。 (3) 事後学習の内容 ・子どものことで今日社会で何が問題となっているかをまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
2	子どもの権利 子どもとおとな、なにが違う？		(1) 学習内容 ・ワークを通して子どもの権利について考える (2) 事前学習の内容 ・教科書の「子どもの権利」p24読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・子どもの権利条約の条文を読む (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
3	社会的養護の仕組み 施設養護・家庭養護・機関・法律		(1) 学習内容 ・社会的養護の体系、関連する機関、法律について学ぶ (2) 事前学習の内容 ・教科書、第1章を読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、社会的養護の仕組みをまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
4	不適切保育について考える① 被措置児童等虐待の防止		(1) 学習内容 ・事例を通して不適切な保育について考える (2) 事前学習の内容 ・不適切な保育とは何かについて調べておく (3) 事後学習の内容 ・不適切な保育について学んだことをまとめる (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
5	不適切保育について考える② 被措置児童等虐待の防止		(1) 学習内容 ・事例を通して不適切な保育について考える (2) 事前学習の内容 ・不適切な保育とは何かについて調べておく (3) 事後学習の内容 ・不適切な保育について学んだことをまとめる (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
6	措置を基本とする施設① 措置制度／乳児院／児童養護施設		(1) 学習内容 ・措置制度にかかわる施設について概要を学ぶ (2) 事前学習の内容 ・教科書、第2章を読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・各施設の役割についてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

7	措置を基本とする施設② 児童心理治療施設／児童自立支援施設	(1) 学習内容 ・措置制度にかかわる施設について概要を学ぶ (2) 事前学習の内容 ・教科書、第2章を読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・各施設の役割についてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
8	利用・契約を基本とする施設① 障害児入所施設／児童発達支援センター	(1) 学習内容 ・利用・契約にかかわる施設について概要を学ぶ (2) 事前学習の内容 ・教科書、第3章を読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・各施設の役割についてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	利用・契約を基本とする施設② 母子生活支援施設／自立援助ホーム等	(1) 学習内容 ・利用・契約にかかわる施設について概要を学ぶ (2) 事前学習の内容 ・教科書、第3章を読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・各施設の役割についてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	社会的養護の歴史	(1) 学習内容 ・児童福祉施設の基本理念について詳しく学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p49～54をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、子どもの最善の利益や子どもの権利に関する条約についてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	社会的養護の歴史	(1) 学習内容 ・アドミッションケアからアフターケアまでの過程について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p55～62をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、カタカナ表記についてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	社会的養護に携わる人々	(1) 学習内容 ・児童福祉施設の役割や運営基準について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p63～72をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、児童福祉施設の種類をまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	里親制度と里親支援	(1) 学習内容 ・児童福祉施設の援助者の役割について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p72をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、職種をまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

1 4	児童福祉施設の運営管理	(1) 学習内容 ・児童福祉施設で働く保育士の役割と他職種との連携について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p73～79をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、チームワークについてまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 5	授業のまとめ	(1) 学習内容 ・増え続ける虐待の実態とその支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p134～144をよく読んでおくこと。 ・これまで学んだところを復習しておくこと。 (3) 事後学習の内容 ・被虐待児への支援についてをまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 6		試験範囲は事前に授業内で伝える。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（人間関係）		飯塚 恭一郎		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2302	
		担当教員	飯塚 恭一郎（実務家）					

【キーワード】	【概要】					
1 保育内容	・ 保育内容「人間関係」領域について、保育エピソード事例をもとに保育現場における人間関係の有り様を考察していく。 ・ 保育現場での観察事例を保育実習日誌の記述内容から抽出し、個人と個人あるいは個人と集団などさまざまな人との関係性について考察を深め理解をしていく。 ・ さまざまな人との関係について、保育者がどのようなスタンスとねらいを持ってかわっていくべきか、他学生の意見や少人数のディスカッションあるいは教員の助言を通して多面的な視点で保育の方法を考えていき、自分の考えを言語化し伝える。					
2 人間関係						
3 信頼関係						
4 個と集団						
5 相互理解						
【授業のテーマ及び到達目標】						
1. 保育現場におけるさまざまな人間関係を、当事者の心情に寄り添うことを大切にしながら客観的にとらえることができる。 2. 人間関係の解釈は答えはひとつでないことを前提に、それぞれの立場を尊重しながらベターな選択ができるためのいくつかの視点を持って関係性を理解できる。 3. 保育現場の人間関係を、そこにかかわる保育者としてコーディネートや仲介をするための具体的な保育の方法について自分の考えをまとめ論述することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	小テスト・レポート	課題・演習	受講態度	合計		
評価割合（％）	45%	30%	25%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。						
【教科書】						
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館						
【参考書・参考資料等】						
『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著（嵯峨野書院）						
【関連科目】						
「子どもと人間関係」「保育原理」「保育内容総論」						
【受講心得】						
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。						

【備考】 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス		【学習内容】 シラバスを基に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
2	子どもと大人（保育者）の関係① ー保育エピソードⅠ（年少児）ー		【学習内容】 年少児の保育エピソード事例を題材に、子どもと保育者（実習生）といった子ども対大人の「一対一」の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、子ども対大人の「一対一」の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
3	子どもと大人（保育者）の関係② ー保育エピソードⅠ（年少児）ー		【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、子ども対大人の「一対一」の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
4	子どもと大人（保育者）の関係③ ー保育エピソードⅠ（年少児）ー		【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、子ども対大人の「一対一」の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
5	子ども同士の関係① ー保育エピソードⅡ（年少児）ー		【学習内容】 年少児の保育エピソード事例を題材に、「一対一」の子ども同士の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例について、実習日誌記述内容を読み返すあるいは経験を振り返るなどして子ども同士の「一対一」の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

6	子ども同士の関係② ー保育エピソードⅡ（年少児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、子ども同士の「一対一」の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
7	子ども同士の関係③ ー保育エピソードⅡ（年中児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、子ども同士の「一対一」の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
8	気のあう仲間集団の関係① ー保育エピソードⅢ（年中児）ー	【学習内容】 年中児の保育エピソード事例を題材に、気のあう仲間集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、子どもと子どもの仲間集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
9	気のあう仲間集団の関係② ー保育エピソードⅢ（年中児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、気のあう仲間集団の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
10	気のあう仲間集団の関係③ ー保育エピソードⅢ（年中児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、気のあう仲間集団の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

1 1	個人と集団の関係① ー保育エピソードⅣ（年長児）ー	【学習内容】 年長児の保育エピソード事例を題材に、個人と集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、個人と集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 2	個人と集団の関係① ー保育エピソードⅣ（年長児）ー	【学習内容】 年長児の保育エピソード事例を題材に、個人と集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、個人と集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 3	個人と集団の関係② ー保育エピソードⅣ（年長児）ー	【学習内容】 前回授業で取り上げた保育エピソードの考察について、他の学生の意見や考察内容を参照し自分の考察内容と比較検討を行う。また、そこから第2段階の考察を巡らし、個人と集団の関係性について理解を深める。 【事前学習】 自分の考察内容を再度読み返し、自分の考えを整理しておく。 【事後学習】 自分の考察内容と他の学生の意見や考察との比較検討から得られた学びを自分なりに整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 4	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係 ー保育エピソードⅤ（年長児）ー	【学習内容】 年長児の保育エピソード事例を題材に、いわゆる「気になる子どもとクラス集団の関係性について、考察をする。 【事前学習】 授業テーマに沿った保育事例を、前回授業の保育エピソードや実習日誌記述内容を読み返したり経験を振り返るなどして、個人と集団の関係性についてあらかじめイメージをつけておく。 【事後学習】 自分が考察した内容についてその文章を読み返すなどして、自分の考察が他者に伝わるかどうかの検証をしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 5	授業の振り返りとまとめ	【学習内容】 授業内で扱った保育現場での子どもを取り巻く人間関係の4つの事例からの学びを振り返り、保育内容における「人間関係」について理解を深める。 【事前学習】 これまでの授業で作成した発表資料はプリント配布資料を整理し、全体を概観しておく。 【事後学習】 授業の学びをもとに、保育の中で子どもの人間関係について「自分目線」で何ができるか何を考えていったら良いかを考える。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

【実務家教員】

フリガナ	イヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】		
幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】		
「保育内容（人間関係）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅲ」、「保育・教育基礎研究Ⅲ」 「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（音楽表現）		豊辻 晴香		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2305	
		担当教員	豊辻 晴香					

【キーワード】		【概要】	
1	音楽表現活動	子どもの年齢や発達段階に応じた音楽活動（合奏、音遊び、音楽表現など）の保育のねらいや内容、指導について学ぶ。また、音楽活動以外の場面における音楽の効果的な使い方を知る一助として、物語のイメージに合う歌や音楽を選択し、物語の展開に合わせて発表する。	
2	合奏		
3	音遊び		
4	音楽物語		
5	指導計画		

【到達目標】	
1. 表現のねらい等を理解し、各年齢に応じた音楽表現活動について計画・指導することができる。	
2. 子どもが発信する表現に気づき、受け止め、共感し、共有することができる。	
3. 物語等における、子どもの想像力を高めるための効果的な音楽を組み立てることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	授業態度	発表	課題・レポート	合計
評価割合（％）	20	60	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
指導計画力	音楽の特性を活かしつつ子どもの発達段階に沿った内容を計画し、且つ創意工夫がみられる。	音楽の特性を活かしつつ、子どもの発達段階に沿った内容を計画する。	子どもの発達段階を意識した内容を計画する。	提示された課題を計画する。		
実践力（保育）	集団に目を配りつつ、個々の子どもの発信に気づき、受け止め、共感しながら保育を展開できる。	個々の子どもの発信に気づき、受け止め、共感しながら保育を展開できる。	個々の子どもの発信に気づきながら、保育を展開する。	計画した保育を展開する。		
実践力（音楽）	事前に教材を十分に理解し、正しいリズム・音や演奏法を正確に説明できる。	事前に教材を十分に理解し、正しいリズム・音や演奏法をやや説明できる。	事前に教材を理解しようと努め、自分なりの解釈でリズムや演奏法を説明できる。	説明はできないものの、自分なりの解釈で、リズムや演奏法を披露できる。		
主体性協調性	知識獲得や活動経験に高い関心を持ち、リーダーシップを取りながら主体的に取り組む。	知識獲得や活動経験に高い関心を持ち、他者と協力しながら主体的に取り組む。	知識獲得や活動経験に関心を持って、自分なりに参加している。	自分なりに活動に参加している。		
レポート	自らの学びや経験を挙げ、他者の助言を踏まえて考察し、自己課題や学びの活かし方を詳しく述べている。	自らの学びや経験を述べ、自己省察し、課題や学びの活かし方を記している。	自らの学びや経験を、そして感想を述べている。	自らの経験と感想を述べている。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。 発表や実践に関しては、終了後にその都度口頭で伝える。		
【教科書】 『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年4月〉』内閣府他 フレーベル館 『2～5歳児のやさしい・楽しい器楽合奏集』安藤真裕子・泉まりこ編曲 ナツメ社		
【関連科目】 「子どもと表現」「保育内容全般」「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」		
【受講心得】 日頃より子どもや音楽について関心を持ち、情報収集に努めること。状況に応じて学習順番等が変更する場合がある。		
【備考】 保育士課程必修、幼稚園教諭課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーションおよび 情報機器の活用法		<学習内容>講義要項（シラバス）の内容、活動メンバーの把握、保育実践スケジュール及び注意事項について確認する。また活動に有益な情報機器について学ぶ。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 子どもの発達と表現領域のねらい・内容		<学習内容>各年齢の子どもの発達を把握したうえで、要領・指針の「表現」領域の保育のねらいや内容について理解する。教科書P.30～42 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
3 器楽合奏活動①：体験		<学習内容>保育現場で扱う楽曲を合奏し、発達段階に適した楽器や楽曲編成などについて学ぶ。そして各担当年齢の合奏活動を計画する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
4 器楽合奏活動②：計画		<学習内容>保育現場で扱う楽曲を合奏し、発達段階に適した楽器や楽曲編成などについて学ぶ。そして各担当年齢の合奏活動を計画する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
5 器楽合奏活動③：指導（未満児）		<学習内容>未満児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間

6	器楽合奏活動④：指導（以上児）	<学習内容>以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について検討する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
7	器楽合奏活動⑤：指導（以上児）	<学習内容>以上児の合奏活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
8	音楽表現活動①：体験	<学習内容>保育現場で扱う音遊びや音楽表現活動を体験することで、音楽を通じた表現方法の可能性について学ぶ。そして各担当年齢の音楽表現活動を計画する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
9	音楽表現活動②：計画	<学習内容>保育現場で扱う音遊びや音楽表現活動を体験することで、音楽を通じた表現方法の可能性について学ぶ。そして各担当年齢の音楽表現活動を計画する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
10	音楽表現活動③：指導（未満児）	<学習内容>未満児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
11	音楽表現活動④：指導（以上児）	<学習内容>以上児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について検討する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
12	音楽表現活動⑤：指導（以上児）	<学習内容>以上児の音楽表現活動を、保育者として実践または子ども役として経験することで、計画や指導法等について考え意見交換する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。発表の事前準備をしておくこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
13	音楽物語①：計画	<学習内容>選択した絵本または紙芝居に、聞き手の想像を膨らませるような効果音やBGMを自ら考え、披露する。 <事前学習>日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 <事後学習>授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間

1 4	音楽物語②：計画	＜学習内容＞選択した絵本または紙芝居に、聞き手の想像を膨らませるような効果音やBGMを自ら考え、披露する。 ＜事前学習＞日々ピアノなどの楽器演奏の練習に励むこと。 ＜事後学習＞授業内容のキーワードなどを整理しておくこと。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
1 5	発表およびまとめ	＜学習内容＞全授業の内容のまとめを行う。 ＜事前学習＞発表の事前準備をしておくこと。これまでの実践や発表の学びや成果などをまとめておくこと。 ＜事後学習＞学びなどを「事後レポート」にまとめて提出する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと環境		川崎 徳子		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2203	
		担当教員	川崎 徳子					

【キーワード】	【概要】					
1 環境構成	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領を基に、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、環境を通して行う教育・保育の意義や役割について考えていく。また、子どもを取り巻く環境（物的環境、人的環境、自然・社会的環境）について知識を深め、環境の視点や感性を育む。環境における専門的な知識を基に、保育内容や指導上の留意点、環境構成を計画・評価できるようになることを目的とする。					
2 物的環境						
3 人的環境						
4 自然・社会的環境						
5 保育内容						
【到達目標】						
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容が理解できる。						
2. 領域「環境」の意義や役割、子どもを取り巻く環境について説明することができる。						
3. 環境を通して行う教育・保育の具体的な内容、指導上の留意点について構想し、評価することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	レポート	課題・小テスト	受講態度	合計		
評価割合（％）	40	40	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			提出されたレポート・課題・小テストについては、授業内で説明・講評をする。			
【教科書】			『領域「環境」』無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林			
【参考書・参考資料等】			『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)『保育所保育指針解説』厚生労働省(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』内閣府他(フレーベル館) その他の参考図書・絵本は随時紹介、資料は適宜配布する。			
【関連科目】			「保育内容総論」「保育内容（環境）」「子ども理解の方法」			
【受講心得】			専門的な知識・技術及び専門職としての資質の向上を目的とし、主体的な学習態度で臨むこと。また、到達目標を常に意識しておくこと。事例や視聴覚教材の活用を通じた演習においては、意欲的に取り組むこと。			

【備考】 幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 子どもを取り巻く環境の変化について		＜学習内容＞授業概要、到達目標等、オリエンテーションを行う。また、子どもを取り巻く環境の変化を知り、環境を通じた教育・保育の大切さを考える。 ＜事前学習＞シラバス（講義要項）を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2	領域「環境」について①		＜学習内容＞幼稚園教育要領、保育所保育指針等示されている「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、具体的な事例を通して、内容の理解を深める。 ＜事前学習＞幼稚園教育要領及び保育所保育指針等を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3	領域「環境」について②		＜学習内容＞幼稚園教育要領、保育所保育指針等示されている「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、具体的な事例を通して内容の理解を深める。 ＜事前学習＞幼稚園教育要領及び保育所保育指針等を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4	環境を通して行う教育・保育の意義や役割について		＜学習内容＞環境を通して行う教育・保育の基本、意義や役割について考えていく。 ＜事前学習＞テキストで指定する箇所を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5	子どもの身近な環境①生活と環境		＜学習内容＞幼稚園、保育所、認定こども園等における子どもが過ごす生活と環境構成について、具体的に考えていく。 ＜事前学習＞テキストで指定する箇所を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
6	子どもの身近な環境②遊びと環境（乳児）		＜学習内容＞幼稚園、保育所、認定こども園等における乳児の遊びと環境構成について、具体的に考えていく。 ＜事前学習＞テキストで指定する箇所を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
7	子どもの身近な環境③遊びと環境（幼児）		＜学習内容＞幼稚園、保育所、認定こども園等における幼児の遊びと環境構成について、具体的に考えていく。 ＜事前学習＞テキストの指定する箇所を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
8	子どもの身近な環境④自然環境		＜学習内容＞幼稚園、保育所、認定こども園等における自然・社会的環境について、具体的に考えていく。 ＜事前学習＞テキストの指定する箇所を読んでおくこと。 ＜事後学習＞授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

9	子どもの身近な環境⑤人的環境		<学習内容>幼稚園、保育所、認定こども園等における人的環境について、具体的に考えていく。 <事前学習>テキストで指定する箇所を読んでおくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	子どもの身近な環境⑥文字・記号・数量		<学習内容>幼稚園、保育園、認定こども園等における文字や記号等の環境について、具体的に考えていく。 <事前学習>テキストで指定する箇所を読んでおくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	保育の計画と保育の実際①		<学習内容>これまでの学びを活用し、実際に保育の計画を立案する。 <事前学習>計画の立案の内容について考えておくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	保育の計画と保育の実際②		<学習内容>これまでの学びを活用し、実際に保育の計画を立案する。 <事前学習>計画の立案の内容について考えておくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	保育の計画と保育の実際③		<学習内容>これまでの学びを活用し、実際に保育の計画を立案する。 <事前学習>計画の立案の内容について考えておくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
14	保育の計画と評価の視点		<学習内容>保育計画の評価の視点に触れ、自身の計画を振り返る。 <事前学習>計画の立案の内容について振り返りをしておくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
15	領域「環境」のまとめ		<学習内容>これまでの学びをまとめる。 <事前学習>これまでの学習内容について、振り返りをしておくこと。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
乳児保育Ⅱ		高口 知浩		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2308	
		担当教員	高口 知浩					

【キーワード】		【概要】	
1	受容	・乳児保育Ⅰでの学びを基礎とし、乳児保育の基本や保育者としての援助・配慮事項等について具体的に考えていく。また、子どもの育ちを保障する保育内容や方法および環境構成について理解を深め、計画や実践できることを目的とする。	
2	応答		
3	保育環境		
4	養護		
5	保育内容		

【到達目標】	
1. 乳児保育の基本、保育者としての援助・配慮事項等を具体的に考えることができる。	
2. 3歳未満児の発育、発達をふまえた保育内容や方法および環境構成について説明できる。	
3. 乳児保育における指導計画を立案することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】				
成績指標	受講態度	課題レポート	提出物	合計
評価割合（％）	30%	40%	30%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
提出された課題等については、返却を行い、授業内で要点を確認する。	

【教科書】	
『実践につながる 新しい乳児保育-ともに育ち合う保育の原点がここに-』大浦賢治編著 ミネルヴァ書房	

【参考書・参考資料等】	
『乳児の発達と保育 遊びと環境』エイデル研究所	
今井和子監修『育ちの理解と指導計画【改訂版】』小学館	
無藤隆・大豆生田啓友編著『0.1.2歳児の子どもの姿ベースの指導計画』フレーベル館	

【関連科目】	
「子どもの心理学」「子どもの保健」	

【受講心得】 専門職を目指すという心がまえをもち、主体的に授業に参加すること。 事前事後学習に取り組み、課題等は必ず提出し、内容理解に努めること。		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 乳児保育の基本（1） 子どもと保育士の関係		＜学習内容＞授業概要や到達目標の説明、乳児保育Ⅰの基本的事項の確認も行う。乳児保育の基本となる、子どもと保育士等の関係性の重要性についてふれる。 ＜事前学習＞シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 乳児保育の基本（2） 子どもと保育士の関係		＜学習内容＞乳児保育における子どもと保育士等の関係性の重要性について、不適切保育にふれ、グループワークをとおして考えを深めていく。 ＜事前学習＞実習の体験レポートを振り返りをしておくこと。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3 乳児保育の基本（3） 子どもの主体性の尊重		＜学習内容＞子どもの自己の発達過程を基に、子どもの主体性を尊重する保育について考えていく。 ＜事前学習＞事前に授業内容に関する箇所を熟読しておくこと。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4 0歳児クラスの保育の実際①		＜学習内容＞0歳児クラスの発育・発達をふまえた保育の内容ならびに保育環境について学ぶ。 ＜事前学習＞0歳児の発達・保育の環境を教科書で確認しておくこと。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5 0歳児クラスの保育の実際②		＜学習内容＞0歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 ＜事前学習＞実習での体験等、記録を振り返っておくこと。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
6 0歳児クラスの保育の計画		＜学習内容＞0歳児クラスの保育を立案し、指導案の展開の工夫、評価のポイント等について学ぶ。 ＜事前学習＞0歳児の発達や遊びを教科書で確認しておくこと。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
7 1歳児クラスの保育の実際①		＜学習内容＞1歳児クラスの発育・発達をふまえた保育の内容ならびに保育の環境について学ぶ。 ＜事前学習＞1歳児の発達・保育の環境を教科書で確認しておくこと。 ＜事後学習＞授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

8	1歳児クラスの保育の実際②	<学習内容>1歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 <事前学習>実習での体験等、記録を振り返っておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	1歳児クラスの保育の計画	<学習内容>1歳児クラスの保育を立案し、指導案の展開の工夫、評価のポイント等について学ぶ。 <事前学習>1歳児の発達や遊びを教科書で確認しておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	2歳児クラスの保育の実際①	<学習内容>2歳児クラスの発達・発達をふまえた保育の内容ならびに保育の環境について学ぶ。 <事前学習>2歳児の発達・保育の環境を教科書で確認しておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	2歳児クラスの保育の実際②	<学習内容>2歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 <事前学習>実習での体験等、記録を振り返っておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、大切な事柄を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	2歳児クラスの保育の計画	<学習内容>2歳児クラスの保育を立案し、指導案の展開の工夫、評価のポイント等について学ぶ。 <事前学習>2歳児の発達や遊びを教科書で確認しておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	乳児保育における特別な配慮を要する子どもの保育	<学習内容>乳児保育における特別な配慮を要する子どもの保育について考えていく。 <事前学習>指定された箇所について教科書を熟読しておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
14	乳児保育における連携と協働	<学習内容>乳児保育の連携と協働について考えていく。 <事前学習>乳児保育Ⅰで学んだ基本的事項を復習しておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
15	乳児保育の基本を深める	<学習内容>子どもの成長を保障する乳児保育のあり方について、これまでの学びを基に、事例をとおして考えていく。 <事前学習>指定された箇所について教科書を熟読しておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育Ⅰ		是松 いづみ		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2204	
		担当教員	是松 いづみ					

【キーワード】	【概要】
1 障害児保育	近年、保育所・幼稚園では、障害認定までには至らないが、発達に遅れや偏りがある子どもが増加しているといわれている。そのような状況で障害のある子どもの保育・教育に関する知識はさらに重要になってきている。また、障害や出生後の養育環境によって、生活のしづらさや困りごとを抱える子どもへの対応や、その課題への解決方法を具体的に計画・提供できることが必要となってくる。本授業では、それらの子どもに対応していくために必要な知識や支援方法を理解していく。
2 知的障害	
3 発達障害	
4 理解と支援	
5 連携と協働	

【到達目標】
1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解することができる。
2. 特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の教育課程及び支援の方法を理解することができる。
3. 障害のある子どもの保護者や家族支援の方法を学び、対応の方法を理解することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	レポート（提出および提出状況）	合計
評価割合（％）	70	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識理解	特別支援教育の教育理念に基づき、その内容理解だけでなくテキスト以外からも幅広く知識を得ようとする	特別支援教育の教育理念に基づき、テキストの内容を一定程度理解できている。	支援教育の教育理念に基づき、テキストの理解が十分でない。	テキストの読解ができず、テキストの内容を理解できていない。		
資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
意見の提示	自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
課題解決能力	自ら進んで様々な資料を探し、課題解決に向けて探求することができ、他人にもアドバイスできる。	テキスト等を参考にして独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートには添削したり、コメントを添えたりして返却する。		
【教科書】 『障害のある子どもの保育・教育』 小林利夫 他 編著 建帛社		
【参考書・参考資料等】 『特別支援学校学習指導要領・解説書』文部科学省 『よくわかる障害児保育』尾崎康子編著 ミネルヴァ書房 『障害児保育』本郷一夫編著 建帛社 『障害児保育』青木豊編著 一藝社 『障害児保育』西村重稀編 中央法規 『障害児保育』鯨岡峻編 ミネルヴァ書房 『障害児の保育・教育』 武藤久枝編 建帛社		
【関連科目】 「特別支援教育Ⅱ」「子どもの心理学」「子ども家庭福祉」「相談支援」「社会福祉」		
【受講心得】 ・子どもを「共感的に理解する」とはどういうことなのかを、事例に則して考えることができるようにする。 ・他の学生や講師の話の聞き、自分の考えや世界を広げたり深めたりできるようにする。 ・学んだ事をどのように生かすかという視点をもつことができるようにする。		
【備考】 幼稚園教諭課程必修 保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要		<学習内容>15回の講義の概要とともに特別支援教育の基本的理念を中心に知る。 <事前学習>事前にテキストに目を通し、15回分の講義要項（シラバス）を知っておく。 <事後学習> 特別支援教育の基本 について授業プリントに書き込んで理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
2 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 1 ・「障害」とは何か ・障害の概念 ・障害体験		<学習内容>「障害とは何か」との問いに障害体験を通して自分のもつ「障害観」を見つめ、障害に対してどのような理解をし、支援をすることが必要であるかを学ぶ。障害の有る無しに関わらず、子どもの発達段階に合った支援の大切さを演習を通して理解する。 <事前学習>テキストP2～10までのエピソードを読む。 <事後学習>授業プリントにまとめて、理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
3 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 2 ・障害児保育の理念 ・障害児保育の歴史的変遷		<学習内容>障害の捉え方の変化について知り、現代の障害の概念について正しく捉える。特別支援教育の歴史的変遷を知り、尽力した人々の思いを受け止める。 <事前学習>授業プリントの資料の歴史的変遷に目を通しておく。 <事後学習>テキストP10までを復習し授業プリントにまとめて理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
4 知的発達症のある子どもの理解と援助		<学習内容>①知的発達症の定義と原因について学ぶ。②知的発達症のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換の中で知的発達症の子どもへの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP27～37の知的発達症の子どもへのエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
5 自閉スペクトラム症のある子どもの理解と援助		<学習内容>①自閉スペクトラム症の定義と原因について学ぶ。②自閉スペクトラム症のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換の中で自閉スペクトラム症の子どもへの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP56～64の自閉スペクトラム症の子どもへのエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

6	注意欠如・多動症のある子どもの理解と援助	<学習内容>①注意欠如・多動症の定義と原因について学ぶ。②注意欠如・多動症のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で注意欠如・多動症の子どもの援助のポイント学ぶ。 <事前学習>テキストP64～69の注意欠如・多動症の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
7	障害のある方の視点から障害を考える	<学習内容>①自閉スペクトラム症の定義、原因、援助の方法について確認する。②自閉スペクトラム症である東田直樹さんのDVDを視聴する。③自閉スペクトラム症本人の言葉から自閉スペクトラム症について理解を深める。④意見交換する中で自分の「障害観」の変容に気付く。 <事前学習>テキストP56～64を復習しておく。 <事後学習>DVD視聴の感想を授業プリントにまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
8	学習障害のある子どもの理解と援助	<学習内容>①学習障害の定義と原因について学ぶ。②学習障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で学習障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP69～72の学習障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
9	視覚障害のある子どもの理解と援助	<学習内容>①視覚障害の定義と原因について学ぶ。②視覚障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で視覚障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP38～43の視覚障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
10	聴覚障害のある子どもの理解と援助	<学習内容>①聴覚障害の定義と原因について学ぶ。②聴覚障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で聴覚障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP44～48の聴覚障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
11	肢体不自由のある子どもの理解と援助	<学習内容>①肢体不自由の定義と原因について学ぶ。②肢体不自由のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で肢体不自由の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP21～26の肢体不自由の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
12	言語障害のある子どもの理解と援助	<学習内容>①言語障害の定義と原因について学ぶ。②言語障害のある子どもへの援助の方法を学ぶ。③演習を通して、意見交換する中で言語障害の子どもの援助のポイントを学ぶ。 <事前学習>テキストP49～54の言語障害の子どものエピソードを熟読し子ども理解に努める。 <事後学習>学習で用いた授業プリントに学んだことをまとめて理解を深める。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間

1 3	家庭支援と相談体制	<学習内容>①障害のある子どもの保護者や家族への理解を学ぶ。②障害受容について学ぶ。③障害のある子どもを支えるための相談のあり方について学ぶ。④多発性奇形のある子どもの家族の成長をDVD視聴する。 <事前学習>障害児の家族の悩みや支援体制の課題についての新聞記事を読んでおく。 <事後学習>自分の地域の 障害者支援のための関係機関を整理する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
1 4	障害のある子どもの保育・教育に関わる現状と課題	<学習内容>①低出生体重児について知る。②家族の思いを知り、障害受容について考える。③低出生体重児を支える社会の仕組みを知る ④健康診査、訪問指導、保健・医療との連携協働の現状と課題を考える <事前学習>低出生体重児の情報収集 テキストP137エピソード9-1を読んで、自分なりの考えをもつ。 <事後学習> プリントのすべての項目を記入して、感想を書く。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
1 5	障害のある子どもの誕生から自立まで現状と課題	<学習内容>①障害のある子どもの誕生の様子を知り、家族の思いを考える。②子どもが成長する中での友達や先生との関わりを知り、「共に生きる」ことを学ぶ。③自立に向けての成長への関わりを知る。 <事前学習>事前に授業プリントを熟読しておく。 <事後学習>この講義で変容した「障害観」を元にこれから自分の生き方にどのように繋げていくかまとめる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
1 6	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅰ（施設）		下木 猛史		2	通年	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2205	
		担当教員	下木 猛史、飯塚 恭一郎（実務家）					

【キーワード】		【概要】	
1	実習	・施設における子どもや入所者の日々の生活の様子を観察し、成長発達の道筋や特性の理解に繋がるかわりを重ねる。 ・保育参加と保育士のサポートを通して、施設の基本的な仕事の内容を体験的に学ぶ。また、人的環境として子どもや入所者にかかわり、その役割の重要性を理解する。 ・保育士としての資質や保育スキル、専門性の獲得の必要性を自覚し、以降の学習と実習に向けて自己の学びの課題を得ることを目指す。 ・現場で実習するにあたり、保育士あるいは社会人として求められる礼儀や挨拶、身なり、立ち振る舞い、言葉遣いがあることを学ぶ。 ・保育士倫理を遵守し、人権を尊重する保育と福祉を実践する。	
2	保育所		
3	施設		
4	観察		
5	利用者理解		

【到達目標】	
1. 施設における基本的な生活の概要を理解し、発達や心情理解をもとに入所者と関わるができる。	
2. 実習体験と日誌記述による日々の振り返りから、保育士に求められる専門性獲得の必要性を自覚するとともに、実習以降の自己の学習課題を明確にすることができる。	
3. 保育士の仕事内容を把握し、人的環境として入所者への保育的働きかけと配慮ができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】				
成績指標	実習園の評価		実習に対する取り組み	合計
評価割合（％）	80%		20%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている。	優れている。	適切である。	努力を要する。		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている。	指摘を受けた個所を改善しようと努力している。	一日の流れ、子どもの姿を理解し、記録している。	毎日提出している。		
態度・行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習をする。	決められた課題に取り組み実習をする。	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする。	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。						
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省（フレール館）						
【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ						
【受講心得】 ・授業には必ず「68期生 実習の手引き」を持参すること。 ・職業倫理を守り、入所者の人権を尊重することを心がける。 ・施設の支援方針を理解し、その施設の保育士として入所者の前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習施設の職員や保育士の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。						
【備考】 保育士資格必修						
【学習項目】						
	【学習内容】 ※原則10日間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習施設の概要と1日の生活の流れを把握する。 ②生活における入所者の基本的生活習慣を知る。 ③入所者の発達特性や障害特性、生育歴等の理解に努める。 ④入所者に対する生活介護の必要性を理解し、介護に必要なスキルの獲得に努める。 ⑤生活の中で入所者とかかわりコミュニケーションを図る。 ⑥個々の入所者の心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ⑦実習施設の清掃や環境整備に取り組み、その環境構成の意図を理解する。 ⑧実習日誌の記述を通して記録の取り方や入所者の生活と支援を観る視点を学ぶ。 ⑨記録された事実から気付きや考察をまとめ、文章化する。 ⑩実習における保育実践について振り返り、反省会等で職員や保育士からの指導、助言、評価を受ける。 【事前学習】 ・実習施設との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。 ・前日の実習内容の振り返りをもとに、本日の実習課題を明確にする。 【事後学習】 ・実習中は、毎日の実習記録として日誌を記述し、本日の実習内容と学びの振り返りを行う。					
	（事前学習） 3 時間 （事後学習） 1 時間					

【実務家教員】

フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。 【実務経験を生かした授業科目】 「保育内容（人間関係）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅲ」、「保育・教育基礎研究Ⅲ」 「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
在宅保育		森 久美子		2	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2401	
		担当教員	森 久美子					

【キーワード】	【概要】
1 家庭訪問保育	保育者が子どもの居宅等を訪問して行う保育として、「家庭訪問保育」、「在宅（居宅）保育」があります。居宅保育に関する専門知識・技術を身につけることを目的とします。在宅における保育者としての保育マインドや保育内容、乳幼児のケアや遊び・保護者への対応について理解を深め、保育技術を高めていきます。
2 子育て支援	
3 個別的保育	
4 保育マインド	
5 乳幼児の発達	

【到達目標】
1. 「在宅（居宅）保育」の概要、役割および必要とされている背景について理解できる。
2. さまざまな子ども・家庭を支援するための保育マインドや支援の基本が理解できる。
3. 在宅での保育において、保育内容や必要な技術を習得することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	レポート	受講態度	小テスト	合計
評価割合（％）	40	30	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内でフィードバックを行う。						

【教科書】						
『家庭訪問保育の理論と実際』 社団法人全国保育サービス協会 中央法規						

【参考書・参考資料等】						
講義中に紹介します。						

【関連科目】						
保育士資格取得に必要な科目						

【受講心得】		
到達目標を達成するために、各授業での内容理解や課題意識をもち、学習意欲をもって受講してほしい。		
【備考】		
認定ベビーシッター課程必修・保育士課程選択必修 授業内で小テストを実施する。必要に応じて、シラバスの順番が変更になる場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション		<学習内容>授業の概要や到達目標等について、オリエンテーションを行う。また、家庭訪問保育・居宅訪問型保育の概要を知る。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目をとおしておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 居宅訪問保育の概要・保育マインド 居宅訪問型保育の実際		<学習内容>居宅訪問保育の概要や業務の流れを理解する。また、保育マインドについても考えていく。ゲストティーチャーを招き、居宅訪問型保育の実際・保護者の背景や保育者の役割について理解を深めていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3 乳幼児の生活と遊び、環境整備		<学習内容>乳幼児の生活や遊び、居宅での環境整備について理解を深め、居宅での保育について考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4 乳幼児の生活① 乳幼児の発達と心理		<学習内容>乳幼児の発達と心理について理解を深め、居宅での保育について考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5 乳幼児の生活② 乳幼児の食事と栄養		<学習内容>乳幼児の食事と栄養について理解を深め、居宅での保育について考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
6 乳幼児の生活③ 小児保健Ⅰ，Ⅱ		<学習内容>乳幼児の健康管理、感染予防について理解を深め、居宅での保育について考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
7 居宅訪問型の保育内容		<学習内容>居宅訪問型における保育内容、計画や評価について学習する。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
8 在宅保育における安全確保と リスクマネジメント		<学習内容>居宅で起こりやすい事故やその対策については事例とDVDを参考に、実際に対応ができるよう考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

9	不適切な養育環境（子どもの虐待）		<学習内容>不適切な養育環境、子どもの虐待について、居宅訪問型保育（在宅保育）の特性をいかした支援と配慮や留意事項について学習する。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
1 0	特別な配慮を必要とする子どもへの対応		<学習内容>特別な配慮を必要とする子どもへの対応について居宅訪問型保育（在宅保育）の特性をいかした支援と配慮や留意事項について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどをふりかえる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
1 1	保育技術の習得（遊び編）		<学習内容>居宅訪問保育における保育技術（遊び）を習得する。 <事前学習>今までに出会った子どもたちの姿を思い返しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
1 2	保育技術の習得（お世話編）		<学習内容>居宅訪問保育における保育技術（お世話）を習得する。 <事前学習>今までに出会った子どもたちの姿を思い返しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
1 3	職業倫理と配慮事項		<学習内容>集団保育と個別的保育の共通点や相違点を理解し、保育者としての職業倫理について考えを深めていく。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
1 4	居宅訪問型保育における保護者への対応		<学習内容>子どもや保護者からの相談について、居宅訪問保育の特性をいかした対応を考えていく。 <事前学習>普段相談を受ける際に気を付けていることなどをまとめておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
1 5	さまざまな家庭訪問保育・まとめ		<学習内容>乳幼児期から児童期までの子どもの保育や様々な家庭状況から必要とされる居宅訪問保育について、まとめをおこなっていく。 <事前学習>今までの授業のプリントなどを振り返っておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅲ		高口 知浩		2	通年	演習 実技	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2313	
		担当教員	高口 知浩、下木 猛史、中村 智子、 飯塚 恭一郎（実務家）、森 久美子、川崎 徳子					

【キーワード】	【概要】
1 保育技術	・園行事を題材とし、子ども主体の保育の在り方について探求する。 ・子どもの発達を理解した上で、活動内容を創造し、それを具体化（計画）させ、議論の中で発展させ、実践する、という一連の取り組みを行う。それを通して、物事を探究していく基礎的な力や、保育者としての専門性を高める。 ・グループの協同作業を通して、保育現場で他の職員とやりとりしながら保育を進めていくことの重要性を学ぶ。 ・園行事を通して保護者対応や行事の運営といった、子どもの保育以外の保育者の業務について学ぶ。
2 個性	
3 指導法	
4 発達	
5 園行事	

【到達目標】
1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気付くことができる。
2. 保育・教育指導に関する学習内容を、保育の場において実践し省察することができる。
3. 保育における効果的な指導法を追究することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	取り組み姿勢等	保育技術	課題レポート	合計
評価割合（％）	30	40	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
主体性 協調性	主体的に活動内容を考え表現し、リーダーシップをとり他者の意見も尊重し協調性を大切にしている	主体的に活動内容を考え表現し、他者の意見も尊重し協調性を大切にしている	自ら発言することもあり、他者からの働きかけに応じる姿が見られる	活動への参加が消極的であり、他者からの働きかけで活動することができる		
指導計画	子どもの発達を理解し、子どもの実態に基づき、計画を深めることができる	子どもの発達を理解し、子どもの実態に基づき、計画を立てることができる	子どもの発達をある程度理解した計画を立てることができる	子どもの発達を少し理解した計画を立てることができる		
実践力	保育者として、子どもの遊びを発展させるなどの関わりの方の工夫ができる	保育者として、関わりの方の工夫ができる	保育者として、子どもと関わる姿が見られる	保育者として、子どもとの関わりに消極的であるが子どもと関わろうとしている		
課題意識	これまでの学びを基礎とし課題を見出し、考えを深めることができる	これまでの学びを基礎とし課題意識をもち、考えることができる	これまでの学びを基礎とし、課題を見出すことができる	与えられた課題から考えようとする姿が見られる		

レポート	レポートの課題について、論点を整理し自分の考えを論理的に述べ、自己省察ができています	レポートの課題について、論点を整理し自分の考えを述べることができている	レポート課題について自分の考えを述べるができる	レポートの課題について、自分の考えを少し述べる事ができる		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートや実践については授業内でフィードバックをする。						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書・参考資料等】 講義の中で紹介する。						
【関連科目】 「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」						
【受講心得】 プロの保育者・教育者を目指す志をもって臨む。 これまでの学びを基に、考えを深めていくことを念頭においておくこと。						
【備考】 保育士課程 選択必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	オリエンテーション 園行事について考える①	全員	<学習内容> オリエンテーション（授業概要の説明） 園行事や子どもへの理解を深めていくためにグループディスカッションを行う。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。 <事後学習>学習内容を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
2	園行事について考える②	飯塚 川崎 高口	<学習内容> 園行事の必要性についてディスカッションをし、学びの共有を行う。 <事前学習>授業や実習で得た学びを振り返る。 <事後学習>学習内容を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
3	園行事について考える③	下木 中村 森	<学習内容>子どもを主体とした園行事の在り方について考える。 <事前学習>授業や実習で得た学びを振り返る。 <事後学習>学習内容を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
4	子どもの遊びを考え、実践する①	飯塚 高口 中村	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
5	子どもの遊びを考え、実践する②	下木 川崎 森	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
6	子どもの遊びを考え、実践する③	下木 飯塚 中村	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			

7	子どもの遊びを考え、実践する④	川崎 森 高口	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
8	子どもの遊びを考え、実践する⑤	全員	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	子どもの遊びを考え、実践する⑥	全員	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	子どもの遊びを考え、実践する⑦	全員	<学習内容>子どもの遊びを考え、実践する。 <事前学習>計画や活動内容を考えておくこと。 <事後学習>活動内容および学習内容を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	サービスマーケティング① 園行事リハーサル	全員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。 <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	サービスマーケティング② 園行事リハーサル	全員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。 <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	サービスマーケティング③ 園行事本番	全員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。 <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
14	サービスマーケティング④ 園行事本番	全員	<学習内容>保育活動を実践する。 <事前学習>シミュレーションの準備をする。 <事後学習>活動内容および気づきを整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
15	振り返りとまとめ	全員	<学習内容>保育の実践を通しての学びを振り返る。 <事前学習>実践で得た学びや反省等を各自考えておく。 <事後学習>当授業で得た学びを整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

【実務家教員】

フリガナ	イヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】		
幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】		
「保育内容（人間関係）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅲ」、「保育・教育基礎研究Ⅲ」 「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅳ		豊辻 晴香		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数教員	ナンバリング			CE2315	
		担当教員	豊辻 晴香、中村 智子					

【キーワード】		【概要】	
1	音楽的表現	音楽的に豊かな表現力と指導力が備わった保育・教育者となれるよう、個々のピアノ演奏技術を向上することを目的とする。授業では音楽表現Ⅱ～Ⅲの復習に始まり、即興的伴奏法の学習、連弾の経験、そして各自が選択した課題内容（高度な子どもの歌など）にも挑戦する。また2度の発表会を企画・運営・実演することで、2年間で培った演奏技術を披露するだけでなく、音楽の魅力的な提供法についても研究する。	
2	弾き歌い		
3	即興的伴奏		
4	連弾		
5	発表		

【到達目標】	
1. 幅広く豊かな音楽的表現ができるよう、ピアノ演奏技術を身に付け実践することができる。	
2. メロディに即興でコード和音等を付けながら、伴奏することができる。	
3. 保育現場で参加者（子ども）も楽しめる音楽発表会について、企画し実践することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	授業態度	発表	課題	合計
評価割合（％）	20	40	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
表現力	曲想や歌の世界観、曲構成を把握し、高度な演奏技術を用いて、音楽的に豊かに表現できる。	多少の音間違いや弾き直しがあるものの、曲想や歌の世界観を音楽的に表現できる。	曲想や歌の世界観を表現することを意識しつつ、基礎的な技術を用いながら演奏できる。	曲想や歌の世界観を表現することを意識しつつ、自分なりに演奏しようと試みる。		
演奏技術力	難易度の高い曲を、概ね編曲等することなく演奏できる。	ある程度の難易度のある曲を、部分的に簡易に変更して演奏できる。	中程度の曲を、弾きやすく編曲したりコードネーム和音を用いて演奏できる。	難易度が簡単な曲を、コードネーム和音を用いて演奏できる。		
理解力	即座に適切なコードネーム伴奏を考えて演奏し、その仕組みを自力で説明できる。	適切なコードネーム伴奏を考えて演奏し、その仕組みを指導を受けながら説明できる。	自分なりに考えてコードネーム伴奏を当てはめることができる。	指導を受けながら、コードネーム伴奏を当てはめることができる。		
主体性	課題意識をもち、計画的に日々の事前学習に取り組む。	課題意識をもちつつ、事前学習に取り組む。	自分なりのペースで事前学習に取り組んでいる。	授業で課題に取り組んでいる。		

積極性	規定より多くの曲数をこなし、いつでも演奏することができる。	規定より、多くの曲数をこなしている。	規定よりわずかに多くの曲数をこなしている。	規定通りの曲数をこなしている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 発表会の評価や内容について、終了時にその都度口頭で伝える。						
【教科書】 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴世（編著） 同文書院 『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布						
【参考書・参考資料等】 『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社						
【関連科目】 「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容（音楽表現）」「子どもと表現」						
【受講心得】 ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。						
【備考】 保育士課程選択必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	オリエンテーション および ピアノ演奏・弾き歌いの発展①	全員	<学習内容>本授業の目的や進行等について理解する。また、既習曲の復習をする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間			
2	ピアノ演奏・弾き歌いの発展②	全員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間			
3	ピアノ演奏・弾き歌いの発展③	全員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間			
4	即興的伴奏法①	全員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間			
5	即興的伴奏法②	全員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間			

6	ピアノ演奏・弾き歌いの発展④	全員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
7	ピアノ演奏・弾き歌いの発展⑤	全員	<学習内容>既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
8	音楽発表会①	全員	<学習内容>保育現場にて、子どもに歌唱演奏・指導を行い、集団の場における実践力を磨く。 <事前学習>発表会に向けて、さまざまな場面を想定しながら事前練習に励む。 <事後学習>現場実践での反省点をまとめ、自己課題を見出す。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
9	即興的伴奏法③	全員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
10	ピアノ楽曲の取り組みと連弾①	全員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を音楽的に表現しながら演奏する。また連弾曲では自身の役割を認識し、他者と協力して演奏する方法を身に付ける。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
11	ピアノ楽曲の取り組みと連弾②	全員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を音楽的に表現しながら演奏する。また連弾曲では自身の役割を認識し、他者と協力して演奏する方法を身に付ける。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
12	ピアノ楽曲の取り組みと連弾③	全員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を音楽的に表現しながら演奏する。また連弾曲では自身の役割を認識し、他者と協力して演奏する方法を身に付ける。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
13	ピアノ楽曲の取り組みと連弾④	全員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を音楽的に表現しながら演奏する。また連弾曲では自身の役割を認識し、他者と協力して演奏する方法を身に付ける。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。 <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間

1 4	ピアノ楽曲の取り組みと連弾⑤ —発表会の準備—	全員	<学習内容>発表会に向けて、総仕上げを行う。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。 <事後学習>今後に活かせるよう、発表会で学んだことを振り返る。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 3 時間
1 5	音楽発表会②	全員	<学習内容>保育現場にて、子どもに歌唱演奏・指導を行い、集団の場における実践力を磨く。 <事前学習>発表会に向けて、さまざまな場面を想定しながら事前練習に励む。 <事後学習>現場実践での反省点をまとめ、自己課題を見出す。 (事前学習) 3 時間 (事後学習) 1 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅱ		高口 知浩		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数		ナンバリング		CE2317	
		担当教員	高口 知浩、豊辻 晴香					

【キーワード】		【概要】				
1	保育所実習	「保育実習Ⅰ」での学びを踏まえて、保育実践力の向上を目指す。子どもの観察とその記録及び子どもの援助やかかわり方、環境構成など、様々な実践を通して総合的に学ぶ。指導計画の立案、指導案の作成、実習記録に基づく省察等、記録を保育にいかす方法を習得する。さらに、専門職としての保育士の役割、職業倫理を学ぶ、自己の課題を明確にする。				
2	子ども理解					
3	保育記録					
4	保育計画					
5	職業倫理					
【到達目標】						
1. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解を深めることができる。						
2. 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について、総合的に理解し、保育実践に結びつけることができる。						
3. 実習における自己の課題を明確にすることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○			
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○			
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標	実習評価		実習に対する取り組み	合計		
評価割合（％）	80％		20％	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている。	優れている。	適切である。	努力を要する。		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている。	指導を受けた個所を改善しようと努力している。	毎日、丁寧に読みやすく書いている。	毎日提出している。		
態度・行動	自分自身の課題を見つけ積極的に実習する。	決められた課題に取り組み実習をする。	指導を受けて自ら改善し実習をする。	多くの指導・助言を受けて実習をする。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 提出された課題については、返却を行い、要点を確認する。
【教科書】 『実習の手引き』 純真短期大学こども学科 『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
【参考書・参考資料等】 適宜、プリントを配布する。
【関連科目】 「保育実習Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅱ」
【受講心得】 保育実習Ⅰの経験をいかして、学びを深めるために、自己の課題を明確にし改善に努めること。 また、専門職である保育士の資格取得に係る実習ですので、意欲的に、責任感をもって参加すること。
【備考】 保育士資格選択必修
【学習項目】 実習は、実習園と調整の上、2年次に10日間実施する。 【実習内容】 ①養護と教育が一体的に展開される保育の理解および技術の習得を目指す。 ②子どもの最善の利益を考慮した保育の実際を理解および保育の展開の習得を目指す。 ③保護者・家庭への支援と地域社会等の連携および保育者間でのチームワークの理解を目指す。 ④全体的な計画に基づく保育指導計画の作成・実践・省察・評価の理解および実践力の向上を目指す。 【事前学習】 実習目標をしっかりとて、目標を達成するために保育の知識のふりかえり、保育技術の向上に取り組むこと。 【事後学習】 日々の実習目標をふりかえり、自己省察し、常に保育の知識・技術の習得に励むこと。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅲ		下木 猛史		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2318	
		担当教員	下木 猛史、飯塚 恭一郎（実務家）					

【キーワード】	【概要】					
1 実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、保育実習Ⅲでは、より具体的な支援・技術を養っていきます。より学びが深まるよう、子ども理解や保護者および家庭支援など具体的な実践に結びつけた参加型実習を行います。					
2 施設						
3 障害						
4 社会的養護						
5 子ども家庭福祉						
【到達目標】						
1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能についての理解を深めることができる。						
2. 子どもやその家庭への理解をもとに、支援のあり方を考えることができる。						
3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○				
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○				
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	実習の評価		提出物	合計		
評価割合（％）	70		30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ループリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている。	優れている。	適切である。	努力を要する。		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている。	指摘を受けた個所を改善しようと努力している。	一日の流れ、子どもの姿を理解し、記録している。	毎日提出している。		
態度行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習をする。	決められた課題に取り組み実習をする。	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする。	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習日誌等の評価とフィードバックは授業内で行う。		
【教科書】 68期生「実習の手引き」その他、適宜プリント、資料を配付します。		
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する		
【関連科目】 「保育実習Ⅰ」「保育実習指導」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」 「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
【受講心得】 ・短い実習期間を有意義に過ごすために、意欲をもって参加し、事前準備や実習の記録を具体的にを行うこと		
【備考】 保育士課程選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
実習は、2年次の7月以降、施設との調整のうえ10日間参加型実習を行う。 【実習課題】 1. 実習施設の役割と機能 2. 実習施設における支援の実際 ①受容、共感する態度および養護（保育）技術 ②入所者や通所者のニーズの把握と理解 ③個別支援計画作成と実践の様子 ④家庭支援と対応 ⑤多様な専門職との連携 ⑥地域との連携 3. 保育士の業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 <事前学習>実習指導の内容を確認し、実習に向けて準備を行うこと <事後学習>実習で学んだことを整理すること （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間		
【実務家教員】		
フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「保育内容（人間関係）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅲ」、「保育・教育基礎研究Ⅲ」 「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅱ		高口 知浩		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2319	
		担当教員	高口 知浩、豊辻 晴香					

【キーワード】	【概要】
1 養護	保育実習Ⅱの意義、目的を理解し、実習生としての必要な資質・知識・技術を演習をと として学ぶ。自己の保育実践をふりかえり、保育士の専門性や職業倫理などについても理解 を深めていく。
2 教育	
3 実習	
4 職業倫理	
5 保育技術	

【到達目標】	
1. 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。	
2. 保育実習Ⅰや既習の教科目内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得することができる。	
3. 保育実践をふりかえり、保育者としての知識および技術の習得、資質について、自己課題を明確にできる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	受講態度	課題・提出物	事前・事後準備	合計
評価割合（％）	30	30	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
態度・行 動	自分自身の課題を克服 するために必要なこと に取り組み、積極的に 事前準備等に取り組 む。	自分自身の課題を 見付け積極的に事 前準備等に取り組 む。	決められた課題を 見付け事前準備等 に取り組む。	教員の指導を受け て改善しながら事 前準備等に取り組 む。		
専門性	保育者になる自覚 をもち、自ら率先 して保育者として の専門性を高める よう努めている。	保育実習生として 必要な知識・技術 を習得するために 自ら取り組む。	教員から指導を受 け、保育実習生に 必要な知識・技術 の習得に取り組 む。	授業に参加し、知 識・技術の習得に 取り組もうとす る。		

観察・記録	記録の意図を理解し、子どもの姿や保育者の援助について考察を述べ、保育を振り返ることができる。	保育者としての視点で観察したものを、考察をしながら書式に則って記録することができる。	教員の指導を受けながら、観察したものを記録することができる。	記録したものの期日を守って提出する。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。						
【教科書】 『実習の手引き』 純真短期大学こども学科 各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						
【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『実践につながる新しい教育・保育実習』 大浦賢治・谷口征子著（ミネルヴァ書房） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 「保育実習Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」 「保育実習指導Ⅱ」						
【受講心得】 遅刻、欠席の回数や受講態度、提出物の遅れなどが重なった場合は実習中止等の判断をする場合がある。						
【備考】 保育士課程必修。状況により学習進行や順番が変わる場合がある。 実習に係る諸手続き等のために、実習園を訪問することがある。						
保育士資格選択必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	保育実習Ⅱの意義、目的	全員	【学習内容】 保育実習Ⅰ（保育所）での学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的について学ぶ。 【事前学習】 シラバスを読んでおくこと。 【事後学習】 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
2	保育士の専門性と職業倫理	全員	【学習内容】 保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基に、保育士の専門性や職業倫理について、考えていく。 【事前学習】 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 【事後学習】 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
3	子どもの最善の利益を考慮した保育の実践①	全員	【学習内容】 各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。（子どもの観察に基づいて） 【事前学習】 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 【事後学習】 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
4	子どもの最善の利益を考慮した保育の実践②	全員	【学習内容】 各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。（子どもと保育者の関係性に基づいて） 【事前学習】 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 【事後学習】 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			
5	子どもの最善の利益を考慮した保育の実践③	全員	【学習内容】 各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。（保育士としての役割について） 【事前学習】 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 【事後学習】 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間			

6	保育の知識・技術をいかした保育実践①	全員	【学習内容】保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 【事前学習】保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 【事後学習】授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
7	保育の知識・技術をいかした保育実践②	全員	【学習内容】保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 【事前学習】保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 【事後学習】授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
8	保育実習Ⅱの書類準備	全員	【学習内容】保育実習Ⅱで使用する書類を作成する。 【事前学習】保育実習Ⅱでの必要書類について確認しておくこと。 【事後学習】書類を完成させ、確認しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
9	保育の計画と実践①	全員	【学習内容】既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、指導案の作成をおこなう。 【事前学習】対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 【事後学習】指導案を完成させる。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
10	保育の計画と実践②	全員	【学習内容】既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、作成した指導案の評価や改善の視点を学ぶ。 【事前学習】対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 【事後学習】指導案を完成させる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
11	実習日誌の記録①	全員	【学習内容】保育実習Ⅰ（保育所）の実習記録を見直し、改善点や自己の課題を見出す。また、保育実習Ⅱでさらに記録の内容が深まるようにポイントを示していく。 【事前学習】実習Ⅰの日誌で指導・助言されたことを復習しておくこと。 【事後学習】要点を整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
12	実習日誌の記録②	全員	【学習内容】保育実習Ⅰ（保育所）の実習記録を見直し、改善点や自己の課題を見出す。また、保育実習Ⅱでさらに記録の内容が深まるようにポイントを示していく。 【事前学習】実習Ⅰの日誌で指導・助言されたことを復習しておくこと。 【事後学習】要点を整理しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
13	実習の総括と自己評価	全員	【学習内容】保育実習の総括を行う。 【事前学習】保育実習Ⅱをふりかえり、気づきをまとめておくこと。 【事後学習】要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

1 4	自己課題の明確化	全員	【学習内容】これまでの実習をふりかえり、自己の課題を明確にする。 【事前学習】保育実習をふりかえり、気づきをまとめておくこと。 【事後学習】自己課題を明確にし、記録しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 5	保育士の資質およびまとめ	全員	【学習内容】専門職として欠かせない保育士の資質について考えていく。 【事前学習】保育士の資質について、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学習】気づき等をまとめておくこと。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅲ		下木 猛史		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2320		
		担当教員	下木 猛史、飯塚 恭一郎（実務家）					

【キーワード】		【概要】				
1	実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、児童福祉施設（保育所以外）についてより学びを深めます。子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深め、支援の実際について考えていきます。その中で、保育士としての役割や業務内容、職業倫理について学び、保育実習Ⅲでの実践に結びつけていきます。				
2	施設					
3	障害					
4	社会的養護					
5	子ども家庭福祉					
【到達目標】						
1. 児童福祉施設（保育所以外）における保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解することができる。						
2. 子どもやその家庭への理解を深め、支援しようとすることができる。						
3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標		受講態度	課題提出およびレポート	合計		
評価割合（％）		30%	70%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識の習得	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容を十分に理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容を理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容をやや理解している。	保育実習Ⅰ（施設）での学びをいかし、多岐にわたる内容を少し理解している。		
保育実践	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることが十分にできている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることができている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることが、ある程度、できている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、保育実践につなげることが少しできている。		
課題意識	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって十分に考えることができている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって考えることができている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって考えることが、ある程度、できている。	保育実習Ⅰ（施設）や事前指導における学びをいかし、事例などに対して、課題意識をもって考えることが、少し、できている。		
レポート	課題に対して、論点を整理し自分の考えを論理的に述べるができている。	課題に対して、論点を整理し自分の考えを述べるができている。	課題に対して、自分の考えを述べるができている。	課題に対して、自分の考えを少し述べるができている。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 プリントを返却し、フィードバックを行う。		
【教科書】 67期生「実習の手引き」 その他、適宜プリント、資料を配布します。		
【参考書・参考資料等】 講義内で紹介します。		
【関連科目】 「保育実習Ⅲ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
【受講心得】 様々な児童福祉施設に興味をもち、意欲的に参加してください。遅刻・欠席、提出物の遅れなどが多い場合には、実習に関する指導が十分でないと判断し、実習を中止とすることがあります。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 保育実習Ⅰ（施設）の振り返り①	全員	<学習内容>保育実習Ⅰ（施設）でのふりかえりを行う。 同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 <事前学習>実習日誌を読み返し、実習で感じたことや学んだことをふりかえっておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。
2 保育実習Ⅰ（施設）の振り返り②	全員	（事前学習） 1 時間 （事後学習） 0.5 時間
3 保育実習Ⅲの意義と目的	全員	<学習内容>保育実習Ⅲでは、どのような学びをし、保育実習Ⅰ（施設）をふまえてどのように学びを深めていくのかを学ぶ。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目を通しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。
4 児童福祉施設の役割と機能について	全員	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。
5 子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援の実際	全員	<学習内容>施設における支援の実際について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。
6 児童福祉施設における保育士の役割と職業倫理	全員	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）の特性をふまえて、保育士としての役割と職業倫理について考える。 <事前学習>保育士の役割や倫理とは何か考えておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。
		（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

7	子どもの最善の利益を考慮した保育	全員	<学習内容>子どもの最善の利益とは何か。保育士としてどのような視点で考えていけばよいのかを検討する。 <事前学習>子ども家庭福祉の教科書を確認しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
8	子どもの姿とその背景にあるもの	全員	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）に入所している子どもたちへの理解とその背景にある家庭、社会について考える。 <事前学習>児童福祉施設（保育所以外）にはどのような子どもたちが入所しているのかを確認しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	実習施設について理解を深める	全員	<学習内容>自分が実習する施設について調べ、理解を深める。 <事前学習>必要な本などを図書館で借りて準備しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	実習の目標 実習生調書作成	全員	<学習内容>実習の目標について考え、グループで発表する。また、実習生調書の作成を行う。 <事前学習>実習施設について調べた資料や、調書に記入する際に必要な情報をまとめておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	実習日誌について 子どもを観る視点	全員	<学習内容>施設における日誌の書き方や、子どもを観る際の視点、大切にしたい視点などを学ぶ。 <事前学習>実習の手引きを確認しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	保育実習Ⅲの振り返り①	全員	<学習内容>保育実習Ⅲのふりかえりを行う。同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 <事前学習>実習日誌を読み返しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	保育実習Ⅲの振り返り②	全員	
14	児童福祉施設における保育の実際と今後の展望	全員	<学習内容>実習で学んだことを中心に、児童福祉施設（保育所以外）における保育の実際について考え、課題や今後の展望について意見交換する。 <事前学習>実習で見えてきた課題についてまとめておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
15	実習の総括と自己評価・課題の明確化	全員	<学習内容>自分自身の実習の総括を行い、自己評価をする。また、個々の課題を明確化し、何が必要なのかを考える。 <事前学習>実習のふりかえりを見返しておく。 <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

【実務家教員】

フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】		
幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】		
「保育内容（人間関係）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅲ」、「保育・教育基礎研究Ⅲ」		
「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習Ⅱ		中村 智子		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2321	
		担当教員	中村 智子、川崎 徳子、森 久美子					

【キーワード】		【概要】
1 教育実習	- 保育観察と参加をしながら、部分的な設定保育や全日実習など、子どもを対象にしたより具体的な保育実践に取り組み、教育実習Ⅰの経験と学びを深める。 - 子どもの発達理解や心情理解をもとに、子どもとの信頼を深める実践的ななかかわりを大切にしつつ、クラス集団を対象とした保育や指導について「保育のねらい」を明確にした指導計画を立案し、部分実習や全日実習に取り組む。 - 保育環境の整備や教員間の連携や協同、家庭や地域との連携など多岐にわたる幼稚園教諭の業務内容について理解を深める。	
2 幼稚園		
3 幼稚園教諭		
4 実地体験		
5 保育実践		

【到達目標】	
1. 指導計画をもとに保育のねらいを達成するための適切な教材研究や準備、練習等に取り組むことができる。 2. 設定保育や全日実習の保育実践の結果を振り返り、指導計画の修正や改善の手がかりを捉えて次の保育実践に生かすことができる。 3. 幼稚園教諭の多岐にわたる教育活動や教員間の連携等の理解を深め、実習以降の学習課題を明確にすることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	実習園の評価	実習に対する取り組み	合計
評価割合 (%)	80%	20%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている	優れている	適切である	努力を要する		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている	指摘を受けた箇所を改善しようと努力している	毎日、丁寧に読みやすく書いている	毎日提出している		
態度・行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習をする	決められた課題に取り組み実習をする	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）
【参考書・参考資料等】 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）
【関連科目】 「教育実習指導」 「教育実習Ⅰ」
【受講心得】 ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。
【備考】 幼稚園教諭免許 選択必修
【学習項目】 ※2週間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかかわりコミュニケーションを図る。 ④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。 ⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。 ⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ。 ⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。 ⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。 ⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。 ⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 ⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。 【事前学習】 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 【事後学習】 実習中毎日、日誌の記入とともに、実習の振り返り、責任保育のブラッシュアップをする。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 1 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育インターンシップ		飯塚 恭一郎		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2322	
		担当教員	飯塚 恭一郎、川崎 徳子					

【キーワード】		【概要】	
1	教育実習	子どもとのかかわりやメンター教諭のサポートとして保育に参加することを軸にしながら、園行事や預かり保育といった通常の短期間の実習では体験できない保育や教員同士の連携作業、園の業務に可能な限り参加していく。そして幅広く幼稚園の役割と幼稚園教諭の業務内容を実践的な体験から学ぶ。また、長期に渡る子どもの観察から成長と発達の変化の有り様を理解し、そこに寄り添う幼稚園教諭の仕事のやりがいを実感する。	
2	幼稚園		
3	幼稚園教諭		
4	インターンシップ		
5	保育実践		

【到達目標】	
1. 園の業務に参加して幼稚園の役割を理解することができる。	
2. 一教員としての気持ちを持って幼稚園の業務に参加することができる。	
3. 保育時間外の多岐にわたる準備、打ち合わせ等や教員間の報告・連絡・相談の重要性をより深く理解することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	実習園の評価	実習に対する取り組み	合計
評価割合（％）	80%	20%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている	優れている	適切である	努力を要する		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている	指摘を受けた箇所を改善しようと努力している	毎日丁寧に読みやすく書いている	毎日提出している		
態度・行動	自分自身の課題を見つけ積極的に実習をする	決められた課題に取り組む実習をする	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする	教員から多くの指導を受けて実習をする		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。						
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）						
【参考書・参考資料等】 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 「教育実習指導」 「教育実習Ⅰ」						
【受講心得】 ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。						
【備考】 幼稚園教諭免許 選択必修						
【学習項目】 ※実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかわりコミュニケーションを図る。 ④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。 ⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。 ⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ ⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。 ⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。 ⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。 ⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 ⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。 【事前学習】 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（業務の準備、絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 【事後学習】 インターンシップ中、本学指導教員に中間報告を行う。また、終了後、出勤簿及び活動記録日誌を指導教員に提出・報告を行い、実習のまとめとする。 （事前学習） 3 時間 （事後学習） 3 時間						

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実技		春田 智明	2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2402
		担当教員	春田 智明				

【キーワード】	【概要】
1 コミュニケーション	既習のレクリエーション理論や方法をふまえて、対象者や目的に合わせたレクリエーションを企画・展開できるレクリエーションの活動や支援について、現場を想定しながら実技や演習を通して学ぶ。
2 ホスピタリティ	
3 健康づくり	
4 遊び	
5 楽しさ	

【到達目標】

- レクリエーション支援の方法と活動の展開方法を身に付けることができる。
- レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を身に付けることができる。
- 対象者や活動現場を想定したレクリエーション支援を実施し、評価し、改善することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】

成績指標	定期試験	受講態度等	合計
評価割合 (%)	70	30	100

【成績評価の基準】

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】

試験終了後、模範解答とコメントを返答する。

【教科書】

適宜資料配布・紹介する。

【参考書・参考資料等】

『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』
日本レクリエーション協会

【関連科目】

「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」

【受講心得】

本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。

【備考】			
レクリエーション・インストラクター課程必修			
場合によって、学外や集中で授業を実施することがあるが、その際は別途知らせる。			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	信頼関係づくりの方法とホスピタリティ①		<学習内容>ホスピタリティートレーニング <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
2	信頼関係づくりの方法とホスピタリティ②		（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
3	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング①		<学習内容>集団がまとまる仕組みを学ぶ <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
4	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング②		（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
5	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法①		<学習内容>複数回の成功体験を楽しむ <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
6	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法②		（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
7	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得①		<学習内容>プログラム計画 <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践
8	レクリエーション支援のためのプログラムと活動の習得②		（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間

9	レクリエーション支援のための プログラムと活動の習得③		<学習内容>プログラム計画と実施 <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
10	レクリエーション支援の実施①		<学習内容>プログラムの実施・振り返り <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
11	レクリエーション支援の実施②		<学習内容>プログラムの実施・振り返り <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
12	レクリエーション支援の実施③		<学習内容>プログラムの実施・振り返り <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
13	レクリエーション支援の実施④		<学習内容>プログラムの実施・振り返り <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
14	レクリエーション支援の実施⑤		<学習内容>プログラムの総括 <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
15	レクリエーション支援の実施⑥		<学習内容>プログラムの総括 <事前学習>テキストに目を通しておくこと <事後学習>生活の場での実践 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
16	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭支援論		高口 知浩		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2201		
		担当教員	高口 知浩、森 久美子					

【キーワード】		【概要】	
1	子育て家庭	・子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解し、保育の専門性を生かした家庭支援の意義・目的について学習する。また、保育者として求められる役割についても考えていく。 ・子育て家庭の福祉を図るための法制度や社会資源、他機関との連携等についても知識を深める。 ・専門的な知識や保育技術をいかした家庭支援の事例にふれ、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援を実践するための力を身につけることを目的とする。	
2	子育て支援		
3	社会資源		
4	連携・協働		
5	子育て支援施策		

【到達目標】	
1. 子育て家庭の現状や課題を踏まえ、保育の専門性を生かした家庭支援の意義、役割を理解できる。	
2. 子育て支援施策や子育て家庭の福祉を図る社会資源について、説明することができる。	
3. 保育者としての専門的な視点で子育て支援を捉え、支援の実践について考えることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】				
成績指標	試験	課題・レポート提出	受講態度	合計
評価割合（％）	60%	20%	20%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
提出された課題等については、返却を行い、授業内で要点を確認する。	

【教科書】	
石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編著『保育と子ども家庭支援論』みらい	

【参考書・参考資料等】	
大豆生田啓友『ちょっとした言葉かけで変わる保護者支援の新ルール10の原則』メイト	
亀崎美沙子『保育の専門性を生かした子育て支援「子どもの最善の利益」をめざして』	

【関連科目】	
「子ども家庭支援の心理学」	

【受講心得】 現代の家庭・家族の抱える諸問題について真剣に考えてほしい。専門職である保育者がおこなう子育て家庭支援の役割を理解し実践につながるように、主体的に臨んでほしい。		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 子どもを取り巻く環境	高口	<学習内容>授業概要、到達目標などの説明をおこなう。また、子どもを取り巻く環境の変化についてふれる。 <事前学習>シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 保育者が実践する子ども家庭支援とは	高口	<学習内容>子ども家庭支援の必要性や保育者の専門性をいかした支援について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3 子ども家庭支援を支える法・制度および社会資源	高口	<学習内容>子ども家庭支援を支える法・制度や社会資源について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4 不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援	高口	<学習内容>不適切な養育環境への気づきのポイントや社会資源の活用法について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5 子どもの貧困の理解と家庭への支援	高口	<学習内容>子どもの貧困の問題点や関係機関との連携について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
6 不適切な養育環境の家庭や貧困家庭への支援の展開	高口	<学習内容>不適切な養育環境の家庭や貧困家庭への支援の展開を考え、理解を深める。 <事前学習>第4回、第5回の復習をしておくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
7 保育者に求められる基本的態度および基本的技術	森	<学習内容>保護者の相談を受ける保育者の基本的態度や相談場面での必要な技術について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

8	保育者が行う子ども家庭支援の実際①	森	<学習内容>保育者が行う子ども家庭支援について、保育所等の特性を生かした子育て支援の視点から理解を深める。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	保育者が行う子ども家庭支援の実際②	森	<学習内容>保育者が行う子ども家庭支援について、保育の現場における具体的な子育て支援の方法を通して理解を深める。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	地域の子育て家庭への支援	森	<学習内容>地域の子育て家庭への支援を担う保育所等の役割や関係機関との連携について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	さまざまな子ども家庭の理解と支援	森	<学習内容>多様化する家庭の状況とともに、支援のニーズも多岐にわたっている現状を理解し、支援の在り方について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	障がいのある子どもや家庭への支援と展開	森	<学習内容>特別な支援や配慮を要する家庭への支援の基本と展開について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク	森	<学習内容>保育現場に求められるソーシャルワークについて考え、理解を深める。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
14	小学校との接続と子ども家庭支援	高口	<学習内容>幼児期の子どもの育ちや小学校教諭との連携の在り方について考える。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
15	保育と子ども家庭支援	高口 森	<学習内容>子ども家庭支援に関する現状と課題をふまえ、保育者の専門性をいかした子育て家庭支援について、考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおくこと。 <事後学習>授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
16	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（健康）		本多 辰之		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2301	
		担当教員	本多 辰之					

【キーワード】	【概要】
1 保育内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂では、領域「健康」に関して、子ども達が見通しをもって行動することや、食べ物への興味関心を持つことが「内容」に明示された。また、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整する重要性とともに、安全に関する指導についても併記されている。保育者は子どもが健康的に育つために、どのようなことに興味や関心を持ち、具体的な支援方法を学び、何を大事にしていくかを理解する。
2 健康	
3 発育発達	
4 生活リズム	
5 身体活動	

【到達目標】	
1. 子どもの発育発達を見通した領域「健康」として保育者の役割を理解できる。	
2. 子どもの発育発達を見通した指導案が作成できる。	
3. 運動遊びなど、模擬保育を体験し、自身の課題発見から課題解決ができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○				
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	指導法・実践力	課題提出	取り組む姿勢	合計		
評価割合（％）	60%	20%	20%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
毎回のミニまとめ用紙に質問や課題等を書き、次の授業でフィードバックする。	

【教科書】	
新しい保育講座⑦ 保育内容「健康」河邊貴子 鈴木康弘 渡邊英則 編著 ミネルヴァ書房 2020.4.30	

【参考書・参考資料等】	
『幼児期運動指針 ガイドブック』 文部科学省（幼児期運動指針策定委員会）	
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）	
『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館）	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）	

【関連科目】			
「子どもと健康」			
【受講心得】			
○身体活動をおこなう授業であるため、実習着での参加とします。 ○危険防止の点から装飾品は身につけない。 ○安全面から爪や髪は整えておく。 ○グループワークがあるため遅刻・欠席には注意のこと。 ○教科書と筆記用具は必ず持参のこと。			
【備考】			
幼稚園教諭免許必修，保育士資格必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（授業の目標を確認する）		<学習内容>本授業の方向性と、目標を確認する。 <事前学習>1年次に受講した「子どもと健康」の学習内容を振り返ること。 <事後学習>5領域での「健康」の重要性を確認する （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2	第7章 領域「健康」と保育方法		<学習内容>保育内容・領域の基本指導計画（基本的な考え方）を理解する。 <事前学習>また指定された教科書のp110～p114までを読んでおくこと。 <事後学習>実践における課題を見出すこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 0.5 時間
3	・環境の重要性を理解する		<学習内容>保育園、幼稚園の運動場についてグループで調べてみる。 <事前学習>指定された教科書のp115～124までを読んでおくこと。 <事後学習>指導案の作成課題（素材）である、遊びの実践例をまとめておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
4	・保育者の援助方法について学ぶ		<学習内容>援助での声掛けや、見守りの大切さを実践する。 <事前学習>指定された教科書のp124～p126までを読んでおくこと。 <事後学習>乳幼児期の発育発達を復習しておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
5	・生活リズムと生活習慣に関わる指導について		<学習内容>幼児期における生活リズム・生活習慣を育む基本的視点を学ぶ。 <事前学習>授業の内容確認をおこなうとともに指定された教科書のp127～p141までを読んでおくこと。 <事後学習>遊びの実践例をまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
6	第10章 運動遊びに関わる計画 ・6か月～2歳ごろまでの運動指導案		<学習内容>6か月～2歳児までの運動と援助についてまとめるとともに運動遊びの指導案をつくる。 <事前学習>幼児期運動指針（文部科学省）」及び教科書p161～p168までを読んでおく。 <事後学習>遊具での遊びを授業で学んだ遊具での遊びをまとめておく。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間

7	・グループごとに発表する	<学習内容>小集団活動による考察をとおして指導案を発展させる。 <事前学習>授業の内容確認をおこなうこと。 <事後学習>次時に作成予定の指導案（略案）を作成すること。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
8	・3歳児以降の運動指導案	<学習内容>3歳児以降の運動と援助についてまとめるとともに運動遊びの指導案をつくる。 <事前学習>「幼児期運動指針（文部科学省）」及び教科書p169～p178まで読んでおくこと。 <事後学習>遊具での遊びをまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
9	・グループごとに発表	<学習内容>小集団活動による考察をとおして指導案を発展させる。 <事前学習>授業の内容確認をおこなうこと。 <事後学習>次時に作成予定の指導案（略案）を作成して試みる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
10	・リズムダンス・体操の計画と実際	<学習内容>小集団によるリズムダンス・体操の指導計画を作成する。 <事前学習>DVDなどを視聴して授業準備をおこなうこと。 <事後学習>自他の動きを確認して、発表準備をおこなうこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
11	・グループごとの発表	<学習内容>自他の発表から考察をおこなうとともに、効果的な指導法を確認する。 <事前学習>授業の内容と方法をの確認をおこなうこと。 <事後学習>他グループの作品をまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
12	第11章 安全への配慮と子どもへの安全教育	<学習内容>安全管理を念頭にした野外（公園や海・山・川）での遊びについて学習する。 <事前学習>自分の体験や実習先での出来事について整理しておくこと。また、教科書p179～p196を読んでおくこと。 <事後学習>安全面での配慮についてまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
13	・運動会の指導案作成	<学習内容>運動会の計画立案をとおして、その運営の在り方を理解する。 <事前学習>幼稚園と保育所における運動会の違いを調べておくこと。 <事後学習>実際の反省をまとめること。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
14	・運動会の指導案発表	<学習内容>運動会の計画立案をとおして、その運営の在り方を理解する。 <事前学習>幼稚園と保育所における運動会の違いを調べておくこと。 <事後学習>発表から振り返りをおこなうこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

15	第12章 領域「健康」にかかわる現代的課題と動向	<学習内容> 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と幼少連携及びその課題について理解する。 <事前学習> 教科書p197～208を読んでおくこと。 <事後学習> 健康に関する感想とまとめを提出すること。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1.5 時間
----	--------------------------	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（環境）		川崎 徳子		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2303	
		担当教員	川崎 徳子					

【キーワード】	【概要】
1 環境	子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについて「子どもと環境」で学んだ知識や感性を踏まえ、子どもの発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定し、実践する力を身に付ける。また、子どもが環境と関わり、何を思考し発見しているのかを理解する為、実際の保育場面を映した視聴覚教材やペープサート・パネルシアターから学ぶ。栽培実践や標識作成にも取り組み、保育に関する知識を得る。
2 自然環境	
3 物的環境	
4 数量・図形	
5 標識・文字	

【到達目標】	
1. 子どもの生活や遊びと保育内容について理解し、領域「環境」のねらいや内容の全体構造が理解できる。	
2. 実際の保育場面や事例を通して、子どもが経験している内容や学びの発達の姿を説明できる。	
3. 具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育や振り返りを通して保育を改善する視点が理解できる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性					
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○					
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○					
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○					
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○					
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○					
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○					
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・レポート	受講態度	合計		
評価割合（％）	60	20	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
授業内の課題・レポート等は、授業内で説明・講評をする。	
定期試験については、模範解答を提示する。	

【テキスト】	
『領域「環境」』無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林	

【参考書・参考資料等】	
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）『保育所保育指針解説』厚生労働省（フレーベル館）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）	
授業中に随時参考図書・絵本等を紹介、適宜資料も配布する。	

【関連科目】	
「子どもと環境」「保育内容総論」「保育内容全般」	

【受講心得】 指導案作成、模擬保育、事例検討等、積極的に取り組むこと。 毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなど、日常の学習を大切にすること。 実習や保育現場で応用できるように学習すること。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読すること。		
【備考】 幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容「環境」とは		<学習内容>授業概要、受講の心得（到達目標、受講態度、評価など）についてシラバスを中心に学ぶ。前期科目『子どもと環境』を復習し、領域のねらいや内容を確認する。 <事前学習>シラバスを読んでおくこと。幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいを読んでおくこと。 <事後学習>内容①～⑫のポイントが説明できるように、振り返りをしておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 幼児期にふさわしい環境・環境構成の実例		<学習内容>教育課程や保育計画、長期・中期・短期指導計画について、意義や意味を確認する。具体的指導計画（部分保育指導案）を基に、環境構成の実例について考える。 <事前学習>関連教科や実習等で学んだ指導計画について復習しておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、資料等を整理してノートにまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3 「環境」のねらい・内容の展開の実例①（園内）		<学習内容>部分保育指導案（園内）の例を基に、保育の流れや保育者の役割（環境の構成や援助）を考える。幼稚園教育要領の内容①～⑫について概要を振り返り、留意点を再確認する。 <事前学習>幼稚園教育要領の内容①～⑫を読んでおくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、資料等を整理してノートにまとめておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4 「環境」のねらい・内容の展開の実例②（園外）		<学習内容>部分保育指導案（園外）の例を基に、保育の流れと保育者の役割（環境の構成や援助）を考える。部分保育指導案作成と模擬保育に向けてグループ分けと担当テーマを決定する。 <事前学習>担当する部分保育指導案を構想しておくこと。 <事後学習>部分保育指導案を作成し、提出できるようにしておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5 自然に親しみ、植物に触れる保育①（計画立案）		<学習内容>自然に親しみ、季節の変化に気付く保育について、意義と留意点を考える。自然に親しむ保育の指導案を立案する。 <事前学習>自然に親しむ保育の部分保育指導案を構想しておくこと。 <事後学習>自然に親しむ保育の部分保育指導案を作成し、提出できるようにしておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
6 自然に親しみ、植物に触れる保育②（栽培実践）		<学習内容>栽培実践を通して、生き物に関心をもち、命の大切さに気付く保育の意義と留意点を考える。自然に親しむための模擬保育の実践を行い、全員で学びを共有する。 <事前学習>模擬保育の準備をしておくこと。 <事後学習>指導案を作成し、提出できるようにしておくこと。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

7	自然に親しみ、植物に触れる保育③ (考察・改善・振り返り)	<学習内容>飼育・栽培、命に触れる保育に関する模擬保育の振り返りを行い、全員で改善点などを共有する。 <事前学習>模擬保育の振り返りを行っておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
8	標識、文字等に関わる保育の実際 (視覚教材の活用)	<学習内容>標識、文字への関心を高める保育のあり方を考え、特に視覚的教材を使う等の工夫をした保育の実際を学ぶ。また、実際に標識の作成をする。 <事前学習>標識作成に必要なデザインや材料の準備を行っておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	数量、図形等に関わる保育の実際 (ペープサート・パネルシアターの活用)	<学習内容>数量・図形に関する概念の形成を促す保育のあり方を考え、児童文化財等を使った保育の実際を学ぶ。引き続き、標識の作成をする。 <事前学習>標識作成の準備を行っておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動	<学習内容>伝統文化や異文化への理解が深まり、情報・社会に関心がもてる保育のあり方について考え、児童文化財等を使った保育の実際を学ぶ。伝統文化・情報等に関する模擬保育を計画・実践し、振り返りを行って、改善点を共有する。 <事前学習>模擬保育の準備を行っておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	身近な素材や自然物を活用した保育の実際① (計画立案)	<学習内容>身近な素材や自然物を活用した保育について、環境の構成や保育者の援助、留意点等を考える。児童文化財や教材等を使い、幼児が主体的に活動できる指導案を立案する。 <事前学習>児童文化財や教材等を使い、幼児が主体的に活動できる豊かな保育を展開する方法を考えておくこと。 <事後学習>教材研究や見本の作成等を行って、模擬保育の準備をしておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	身近な素材や自然物を活用した保育の実際② (模擬保育)	<学習内容>身近な素材を使った活動の模擬保育を実践し、振り返りを行って、改善点等を共有する。 <事前学習>教材研究や見本の作成等、模擬保育の準備を行うこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	身近な素材や自然物を活用した保育の実際③ (模擬保育)	<学習内容>自然物にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点等を共有する。 <事前学習>教材の準備と模擬保育の準備をしておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
14	身近な素材や自然物を活用した保育の実際④ (考察・改善・振り返り)	<学習内容>自然物にかかわる保育について模擬保育を実践し、振り返りを行って改善点等を共有する。また、自己の保育を振り返り、今後の課題をまとめる。 <事前学習>教材の準備と模擬保育の準備をしておくこと。 <事後学習>学習内容を振り返り、重要な点等をまとめておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

1 5	環境に関わる現代的課題 (障がいのある幼児に配慮した指導を含む) 授業の振り返りとまとめ		<学習内容>領域「環境」に関わる現代的課題に着目して、具体的な援助や環境の構成のあり方について考える。1回～14回の授業を振り返り、補足やまとめを行う。 <事前学習>資料の整理やノートのまとめを行い、持参できるように準備しておくこと。 <事後学習>授業内容を復習し、概要を説明できるようになっておくこと。また、定期試験に対応できるように準備しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 6	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（言葉）		森 久美子		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2304	
		担当教員	森 久美子					

【キーワード】		【概要】				
1	コミュニケーション	人間にとって大切な言葉の機能と教育目標との関係性及び保育内容「言葉」のねらいについて体験的なワークを交えて学び、保育内容「言葉」の発達に関する基本的な事項の理解を探る。絵本を中心に物語性やイメージを大切にしたい保育内容とその指導計画及び展開について演習を取り入れながら実践的に学習する。また、小学校との連携に関する基本的な考えについて学びを深める。				
2	絵本					
3	分析力					
4	児童文化財					
5	総合活動					
【到達目標】						
1. 子どもの言葉の発達過程をふまえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解することができる。						
2. 保育の場面を想定し、言葉によってイメージを共有し表現する力を育てる保育内容を考え、指導することができる。						
3. 言葉による伝え合いや文字の習得など、小学校との連携についても学びを深めることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	小テスト・課題	演習・発表	提出物・受講態度	合計		
評価割合（％）	40	40	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内の課題や演習については、授業内で説明・講評をする。						
【教科書】						
『シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・言葉』秋田喜代美・三宅茂夫 監修 みらい(株)						
【参考書・参考資料等】						
『保育と絵本』 エイデル研究所						
【関連科目】						
「子どもと言葉」「子どもの心理学」 保育関連科目全般						
【受講心得】						
言葉の成り立ちや子どもへの関わりが言葉や心の成長につながることを理解し、受講する。協調性を持って演習に取り組む。						

【備考】			
幼稚園教諭免許必修		保育士資格必修	
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 領域「言葉」と10の姿		<学習内容>保育所保育指針を持参する。領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。1年次の「子どもと言葉」で学んだことを振り返る。10の姿とは何かを確認し、領域「言葉」との関連性およびICTを活用した事例を見ていく。 <事前学習>シラバスをみて、今後の学習についての見通しを持つ。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2	文字や記号に対する感覚や興味・関心を育む保育実践		<学習内容>文字や記号に対する子どもの感覚や発達を理解し、興味・関心を育む環境や保育活動について学ぶ。 <事前学習>テキストの指定する箇所を読んでおく。 <事後学習>授業内での学びや気づきをまとめておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3	パネルシアターを活用した言葉遊びへの展開		<学習内容>パネルシアターの実際を知り、パネルシアターを活用した言葉あそびへの展開や方法、指導案について学ぶ。 <事前学習>指導案についてテキストを読んでおく。 <事後学習>課題の題材探しをしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4	言葉の感覚やイメージを育む保育実践 パネルシアター作り①		<学習内容>パネルシアターづくり、個人パネルを作る。卒業後、現場に持って行けるような作品を作る。 <事前学習>課題の題材探しをしておく。 <事後学習>手あそびの練習、作品作りの続きをしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5	言葉の感覚やイメージを育む保育実践 パネルシアター作り②		<学習内容>パネルシアターづくり、個人パネルを作る。卒業後、現場に持って行けるような作品を作る。 <事前学習>作品の制作過程の目途を付けておく。 <事後学習>手あそびの練習、作品作りの続きをしておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
6	言葉の感覚やイメージを育む保育実践 パネルシアター作り③		<学習内容>パネルシアターづくり、個人パネルを作る。作品の仕上げを行う。 <事前学習>作品の制作過程の目途を付けておく。 <事後学習>手あそびの練習、作品を仕上げておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
7	言葉の感覚やイメージを育む保育実践 パネルシアター発表		<学習内容>作成した個人パネルの指導案に沿って、パネルの実践発表をする。グループに分かれ、お互いに発表を行う。 <事前学習>指導案に沿って、パネルの発表練習をしておく。 <事後学習>感想、考察、反省、課題をまとめておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
8	絵本を活用した劇（人形劇）遊びへの展開		<学習内容>絵本を活用した劇（人形劇）あそびへの展開や方法を知り、具体的な人形劇の進め方について理解を深める。 <事前学習>絵本を事前に読んでおく。 <事後学習>感想、考察をまとめておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

9	「言葉」総合活動 人形劇表現①		<学習内容>クラス全体での人形劇活動について企画、配役決め、準備などを行う。 <事前学習>人形劇についての予習・復習をしておく。 <事後学習>全体及び各役割グループ内で、今後の見通しについて話し合っておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	「言葉」総合活動 人形劇表現②		<学習内容>人形劇活動について必要な制作、練習、手直しなどを行う。 <事前学習>制作準備、各パート練習などしておく。 <事後学習>本日の反省を踏まえ、来週に向けての計画を全体及び各グループ内で確認しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	「言葉」総合活動 人形劇表現③		<学習内容>人形劇活動について必要な制作、練習、手直しなどを行う。 <事前学習>制作準備、各パート練習などしておく。 <事後学習>本日の反省を踏まえ、来週に向けての計画をグループで確認しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	「言葉」総合活動 人形劇表現④		<学習内容>人形劇活動について必要な制作、練習、手直しなどを行う。 <事前学習>制作準備、各パート練習などしておく。 <事後学習>本日の反省を踏まえ、来週に向けての計画をグループで確認しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	「言葉」総合活動 人形劇表現⑤		<学習内容>人形劇活動について必要な制作、練習、手直しなどを行う。仕上げを行う。 <事前学習>制作準備、各パート練習などしておく。 <事後学習>本日の反省を踏まえ、来週に向けての計画をグループで確認しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
14	「言葉」総合活動 人形劇総括		<学習内容>人形劇の予行練習・リハーサルを行う。子どもたちが楽しい時間となるように何が大切かを考え、本番同様、各自、自分の役割を全うできる様にする。また、人形劇表現の制作から実践までを振り返る。 <事前学習>舞台設定を協力して行う。 <事後学習>本日の振り返りをしておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
15	領域「言葉」まとめ、小テスト		<学習内容>領域「言葉」に関わる専門的事項と指導法及び保育実践の総括について、振り返り・まとめを行う。 <事前学習>テキストの指定する箇所を読んでおく。 <事後学習>全体を振り返りまとめの学習をしておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
16	発表		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育Ⅱ		是松 いづみ		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2306	
		担当教員	是松 いづみ					

【キーワード】	【概要】					
1 特別支援	現在、障害の有無に関わらず、あらゆる人がお互いに人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の実現を目指すノーマライゼーションの理念のもと、教育や福祉の領域で様々な取り組みを行っている。授業では障害をはじめ、特別の支援や配慮が必要な子どもたちとの関わり方を学んだ上で、特別の支援や配慮が必要な子どものアセスメントから支援計画の立て方までを理解し、さらに職員間連携や関係機関との連携のあり方についても学ぶ。					
2 インクルーシブ						
3 合理的配慮						
4 特別な配慮と支援						
5 連携と協働						
【到達目標】						
1. 障害のある子どもやその他特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や、個別支援および保育実践について考えることができる。						
2. 障害の有無に関わらず、子ども同士が育ち合う関係を築くための具体的実践方法を理解することができる。						
3. 障害のある子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について学び、さらに保育に関する現状と課題について理解できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標	レポート（内容及び提出状況）	提出物および受講態度	合計			
評価割合（％）	70	30	100			
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識理解	特別支援教育の教育理念に基づきその内容理解のために本やニュースからも幅広く知識を得ようとする。	特別支援教育の教育理念に基づき、テキストの内容を一定程度理解できている。	支援教育の教育理念に基づき、テキストの理解が十分でない。	テキストの読解ができず、テキストの内容を理解できていない。		
資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
意見の提示	自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。		
課題解決能力	自ら進んで様々な資料を探し、課題解決に向けて探求することができ、他人にもアドバイスできる。	テキスト等を参考にして独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポート等は、コメントを添えて返却する。		
【教科書】 『特別支援教育・保育概論』小野明美他編著 萌文書林		
【参考書・参考資料等】 『特別支援学校学習指導要領・解説書』文部科学省 『特別支援教育』 石橋裕子他 ミネルヴァ書房 『特別支援教育からインクルーシブ教育への展望』 渡邊健治編著 クリエイツかもがわ 『インクルーシブ教育への提言』清水貞夫編著 クリエイツかもがわ 『インクルーシブ保育っていいね』小山望他編著 福村出版		
【関連科目】 「特別支援教育Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「社会福祉」「相談支援」		
【受講心得】 ・子どもを「共感的に理解する」とはどういう事なのかを、事例に即して考えることができるようにする。 ・他の学生や講師の話を聞き、自分の考えや世界を広げたり深めたりできるようにする。 ・学んだ事をどのように生かすかという視点をもつことができるようにする。		
【備考】 保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要		<学習内容>15回の講義の概要とともに特別支援教育で学ぶことを知る。特別支援教育の歴史を学び先駆的な取り組みをした人物について理解する。 <事前学習>事前にテキスト全体に目を通し、シラバス（講義要項）を知っておく。 <事後学習>特別支援教育の基本について授業プリントに書き込んで理解を深める。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
2 特別支援教育の制度や仕組み ・特別支援教育 ・特別支援教育の学びの場と手続き ・合理的配慮		<学習内容>インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを学ぶ。 <事前学習>テキストP10～16を読んで、内容を掴む。 <事後学習>「合理的配慮」についてそれぞれの場合についてまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
3 障害児保育の基本 ・障害児保育とは ・障害児保育の展開 ・周囲の子どもとの関わり ・障害を理解する際の注意点 ・言葉の整理		<学習内容>インクルーシブ教育の理念と教育現場での様子を knowing 現場の課題を考える。 <事前学習>テキストP17～31を読んで、内容を掴む。 <事後学習>ノーマライゼーション、インクルージョンなど特別支援教育で使われる言葉を授業プリントに整理する。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
4 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援（1） ・情緒障害 ・場面緘黙 ・感覚過敏		<学習内容>さまざまな配慮を要する子どもの特性を知り、支援について学ぶ。（情緒障害 場面緘黙 感覚過敏） <事前学習>テキストP136～140を読んで、内容を掴む。 <事後学習>情緒障害、場面緘黙、感覚過敏について学んだことを授業プリントにまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
5 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援（2） ・虐待 ・母国語が外国語の場合 ・貧困		<学習内容>さまざまな配慮を要する子どもの特性を知り、支援について学ぶ。（虐待 母国語が外国語の場合 貧困） <事前学習>テキストP141～151を読んで、内容を掴む。 <事後学習>虐待・母国語が外国語の場合・貧困について学んだことを授業プリントにまとめる。組織的な対応の必要性について授業で学んだことを記述する。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

6	幼稚園及び保育所等における教育・保育の 実際 ・ 全体的な計画 ・ 支援計画 ・ 指導計画	<学習内容>全体的な計画，支援計画，指導計画の意義と活用について学び，実際に書いて記録の方法を理解する。 <事前学習>テキストP154～179を読んで，内容を掴む。 <事後学習>自分が作った個別の支援計画と他の学生が作った支援計画を比べて，良さや課題を話し合う。支援シートの例を熟読する。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
7	保育現場での支援目標の立て方と実際の支援方法	<学習内容>保育現場での支援目標の立て方や実際の支援の方法を演習を元に理解する。 <事前学習>プリントの演習を読んで内容を掴む。 <事後学習>支援環境や教材がなくても遊びや生活に必要なスキルを身につけることの大切さをプリントにまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
8	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 ・ 通級による指導 ・ 自立活動	<学習内容>教育現場で行われている「通級による指導」「自立活動」についてその意義と活動について学び，課題を考える。 <事前学習>テキストP209～212を読んで内容を掴む。 <事後学習>自立活動の具体的な内容について学んだことを元に記述する。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
9	個々の発達を促す生活や遊びの環境 ・ 生活環境の大切さ ・ 遊びの大切さ ・ 障害に応じた生活環境の設定と配慮	<学習内容>障害に応じた生活環境の設定と配慮や支援について理解する。（ダウン症児 友だちとのかかわりが難しい子ども 肢体不自由児 聴覚障害児） <事前学習>特別支援教育Ⅰのテキストを復習しておく。 <事後学習>それぞれの支援についてまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
10	職員間の連携・協働 ・ 園全体の取り組みについて ・ 子どもへの個別的な関わりについて ・ 組織としての園の支援体制について	<学習内容>保育現場での職員間の連携や協働について具体的内容を学ぶ。 <事前学習>テキストP195～201を読んで内容を掴む。 <事後学習>演習のA先生はどのように対応したらよかったかについて学んだ事を元にまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
11	特別支援教育コーディネーター，関係機関，家庭と連携しながらの支援体制の構築 ・ 特別支援教育コーディネーターの役割 ・ 校内委員会の1年間 ・ 関係機関との連携	<学習内容>保育現場で特別支援教育を推進するコーディネーターの役割を知り，演習で具体的に考える。ケース会議を経験して進め方を理解する。 <事前学習>テキストP219～228を読んで内容を掴む。 <事後学習>ケースカンファレンスを行った感想をまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
12	家庭及び自治体・関係機関との連携 ・ 保護者や家族に対する理解と支援 ・ 保護者への支援における問題と課題	<学習内容>障害のある子どもの保護者や家族への理解を深め，その支援について考える。 <事前学習>テキストP230～233を読んで内容を掴む。 <事後学習>保護者の相談や悩みにどのように答えられるか自分なりの考えをまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
13	障害理解授業の実際 ・ 模擬授業 ・ ノーマライゼーション	<学習内容>障害のある子どもが生きやすい世の中を作っていくために障害理解授業を通して障害観を問う。 <事前学習>授業プリントを熟読する。 <事後学習>授業を受けて，自分の障害観と向き合い，さらに学生の交流を行い，自分と比較したり取り入れたりする。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
14	発達支援の技法 ・ ソーシャルスキル トレーニング ・ ティーチャーズ トレーニング	<学習内容>発達支援の技法の種類や内容を知り，2つの技法について実際に経験して理解を深める。 <事前学習>授業プリントを読んで内容を掴む。 <事後学習>授業で学んだこと，気づきなどをプリントにまとめ，周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

1 5	障害その他の特別な配慮を要するこどもの保育に関わる現状と課題 ・福祉・教育における現状と課題 ・支援の場の広がりをつながり		<学習内容>関係機関や地域、また小学校などとの連携について演習を元に考える。 <事前学習>テキストP243～264を読んで内容を掴む。 <事後学習>この講義で学んだことを振り返り、「特別支援教育」の理念について述べられるようにする。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
1 6	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
社会的養護Ⅱ		下木 猛史		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2307	
		担当教員	下木 猛史					

【キーワード】		【概要】	
1	社会的養護	社会的養護のもとで生活している子どもたちの健やかな育ちや最善の利益を保障するため、施設ではどのような支援が行われているのかについて、子どもたちの学びや支援者（保育者）の支援の実際を児童養護施設や児童心理治療施設の事例を通し実践的に学びます。	
2	虐待		
3	里親		
4	施設		
5	子どもの権利		

【到達目標】	
1. 社会的養護のもとで生活する子どもたちについての理解と生活の様子が理解できる。	
2. 社会的養護のもとで生活する子どもたちの支援についての知識や技術について理解できる。	
3. 児童養護施設等に勤務する保育士の役割やチーム支援について理解できる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】			
成績指標	ミニレポート・提出物・試験	取り組みの姿勢・受講態度	合計
評価割合（％）	70	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知識理解	特別支援教育の教育理念に基づき、インクルーシブ教育の現状と課題が理解できる。	特別支援教育の教育理念に基づき、障害の種別に合った教育が理解できる。	特別支援教育を受ける子どもの障害種別について理解できる。	特別支援教育の必要性が理解できる。		
意欲態度	疑問点等を仲間と共有し、参考文献等で調べたり教員に質問することができる。	疑問点等を仲間と共有し、積極的に話し合いを行う態度が見られる。	講義内容の重要な箇所をメモし、疑問点に気が付くことができる。	事前に教科書を読み、講義内容を集中して聞く意欲がある。		
課題解決能力	様々な資料から課題解決を行い、仲間にもアドバイスできる。	テキストや文献等を参考に、独自に課題解決に取り組むことができる。	仲間のアドバイスがあれば課題に気が付くことができる。	仲間のアドバイスを聞くことができる。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 毎回ミニレポートを提出してもらい、次回に返却をすることで、授業の理解度の確認とフィードバックを行う。		
【教科書】 なし		
【参考書・参考資料等】 杉山宗尚編「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ」萌文書林 講義の中で適宜紹介します		
【関連科目】 「社会的養護Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会福祉」「保育実習」		
【受講心得】 事前に教科書を読み、全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること。		
【備考】 保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 社会的養護Ⅰの振り返り		<学習内容>社会的養護のもとで生活する子どもたちの状況や、施設養護の体系、施設養護の課題についてビデオを見ながら振り返る <事前学習>社会的養護Ⅰで配布された資料等に目を通しておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 子どもたちは施設入所をどのように捉えているのか（事例を交えながら）		<学習内容>子どもたちは施設に入所するということをどのように捉えているのかについて事例を交えながら解説する <事前学習>自分が家族から離れて施設に入所することになった時、どのように思うのかについて考えておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
3 アドミッションケア① 子どもの保護		<学習内容>施設に入所する前の段階（保護）の支援においてどのような配慮が必要なのかについて解説する <事前学習>施設に入所する際にどのようなことばがけや対応があれば不安な気持ちが和らぐのかについて考えておく <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
4 アドミッションケア② 子どもを受け入れる		<学習内容>施設に子どもを受け入れる際の、施設側に必要な配慮について解説する <事前学習>施設に入所する際にどのようなことばがけや対応があれば不安な気持ちが和らぐのかについて考えておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
5 虐待を受けた子どもの行動の理解		<学習内容>入所理由の大半を占める虐待について、子どもの心や身体、そして行動にどのような影響を及ぼすのかについて解説し、施設支援について考える足がかりとする <事前学習>虐待について自分なりに学習しておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間

6	インケア① 生活を共にする	<学習内容>施設の日課やルールの意味について解説する <事前学習>生活の日課やルールが私たちにとってどのように役に立っているのかについて考えておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
7	インケア② 子どもとの関係性	<学習内容>子どもから信用してもらえる支援者の心構えについて解説する <事前学習>この大人は信用できる人だと子どもが思えるための大人の姿勢には何が求められるかについて考えておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
8	インケア③ DVDを見ながら支援を考える	<学習内容>児童心理治療施設に入所している高校女児のドキュメンタリーをみながら、支援者と女児のかかわりについて、詳しく解説する <事前学習>虐待を受けた子どもの行動への理解について振り返っておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
9	インケア④ DVDを見ながら支援を考える	<学習内容>児童心理治療施設に入所している高校女児のドキュメンタリーをみながら、支援者と女児のかかわりについて、詳しく解説する <事前学習>虐待を受けた子どもの行動への理解について振り返っておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	インケア⑤ 個別支援について	<学習内容>子どもの抱える問題や課題に即した支援のあり方について解説する <事前学習>虐待を受けた子どもの行動への理解について振り返っておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	インケア⑥ グループワーク	<学習内容>子ども同士の育ちあいをどのように支援していくのかについて解説する <事前学習>自分が幼少の頃に友だちとかかわりあいながら成長できた場面についてまとめておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	リービングケア／アフターケア①	<学習内容>退園や自立に向けて、どのような支援が必要になるのかについて解説する <事前学習>自分が一人暮らしをする際に、どのような情報や知識があれば役に立つのかについて考えておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	リービングケア／アフターケア②	<学習内容>退園や自立に向けて、どのような支援が必要になるのかについて解説する <事前学習>自分が一人暮らしをする際に、どのような情報や知識があれば役に立つのかについて考えておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

1 4	ケース演習	<学習内容>ケース演習を通して、チームワークのあり方について学ぶ。 <事前学習>いままでの授業でわからなかったところを振り返っておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 5	ケース演習／授業の振り返り	<学習内容>社会的養護施設の職員として資質向上を図るにはどうすれば良いかを学ぶ。 <事前学習>いままでの授業でわからなかったところを振り返っておく <事後学習>授業で学んだことを、指定の用紙にまとめ、気づきなどを周りの人と話してみる。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
相談支援		下木 猛史		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2309	
		担当教員	下木 猛史					

【キーワード】		【概要】				
1	保育相談支援	この授業では、現代社会における子育てをしている家庭が置かれている現状と課題について把握し、子どもや保護者、地域で子育てをしている家庭に多い相談内容を知り、実際の事例やグループディスカッションを通して、保育相談についての考えを深める。また、相談支援を行う専門職として必要な専門知識及び専門技術を学び、信頼される専門職となるための基本的態度、倫理観を身につけることを目的とする。				
2	信頼関係					
3	支援計画					
4	連携・協働					
5	社会資源					
【到達目標】						
1. 現代社会における子育てをしている家庭が置かれている現状と課題について把握することができる。						
2. 相談支援を行う専門職として必要な専門知識及び専門技術、基本的態度、倫理観を身につけることができる。						
3. 実際の保育相談支援の場面を想定し、保護者への相談支援を実行することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	試験	受講態度	小テスト／提出物	合計		
評価割合（％）	50	20	30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
課題は授業中に提示し、次回授業時に返却する。						
【教科書】						
『実践・保育相談支援』青木紀久代編著 みらい						
【参考書・参考資料等】						
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省						
『学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と相談援助（第2版）』前田敏雄監修／佐藤伸隆編集 みらい						
『学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と子育て支援』小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集 みらい						
【関連科目】						
「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「子どもの心理学」「子ども家庭支援の心理学」						

【受講心得】 保育現場での保護者支援の内容と技術について、主体的に授業に参加し理解できるように学び、事例を通して積極的に実践することを心がける。		
【備考】 幼稚園教諭課程必須、保育士課程必須		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション なぜ、相談支援を学ぶのか（保育所保育指針を通してその背景と重要性を学ぶ）		<学習内容>なぜ、相談支援が必要なのかについて学ぶ <事前学習>事前に保育所保育指針の5章を読んでおく。 <事後学習>保育所保育指針5章、教科書のp14～24を再読しておく （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 保育相談支援の方法Ⅰ インテーク／アセスメント		<学習内容>保育者による保育相談支援の特徴や、相談支援の流れを事例を通して説明する。 <事前学習>事前に教科書のp26～45を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
3 保育相談支援の方法Ⅱ プランニング／インターベンション／事後評価		<学習内容>相談支援の流れを事例を通して説明する <事前学習>事前に教科書のp26～45を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
4 保護者との関係づくりⅠ カウンセリングマインド／バイステックの7原則		<学習内容>保護者との関係づくりについて、カウンセリングマインドや、バイステックの7原則について説明する。 <事前学習>事前に教科書のp46～54を読み、専門用語の意味を理解しておく。また前回授業の該当ページも読んでおく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
5 保護者との関係づくりⅡ カウンセリングマインド／バイステックの7原則		<学習内容>保護者との関係づくりについて、バイステックの7原則について説明する <事前学習>事前に教科書のp46～54を読み、専門用語の意味を理解しておく。また前回授業の該当ページも読んでおく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
6 相談援助者となるためにⅠ 基本的態度とコミュニケーションスキル		<学習内容>相談援助者に必要な基本的態度とコミュニケーションスキルについて説明する <事前学習>事前に配布した資料を読み、専門用語の意味を理解しておく。また前回授業の該当ページも読んでおく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間

7	相談援助者となるためにⅡ 記録／ジェノグラム／カンファレンスと コンサルテーション	<学習内容>相談援助者に必要な記録、ジェノグラムの技法について説明する <事前学習>事前に配布した資料を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
8	保育の環境を生かした支援／地域の資源の活用と関係機関との連携	<学習内容>保育相談支援における地域の相談資源や他機関との連携について説明する。 <事前学習>事前に教科書のp58～81を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
9	養育力の向上を目指した支援の実際	<学習内容>養育力の向上を目指した支援について事例を通して考える <事前学習>事前に教科書のp102～115を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
10	苦情対応からはじまる支援の実際	<学習内容>苦情対応からはじまる支援の実際について事例を通して考える。 <事前学習>事前に教科書のp130～141を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
11	要保護児童の家庭に対する支援の実際	<学習内容>要保護児童の家庭に対する支援の事例について触れ、保育相談支援の実際を把握する。グループワークも行う。 <事前学習>事前に教科書を p 158～169を読み、専門用語の意味を理解しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
12	乳児院や児童養護施設における支援の実際	<学習内容>乳児院や児童養護施設における支援の実際について事例を通して考える。 <事前学習>事前に教科書のp170～185を読み、実際の支援場面を把握しておく。 <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
13	ケースカンファレンスの実際（演習）	<学習内容>児童養護施設の事例についてケースカンファレンスの演習を実施し、ケースのアセスメントや対応について考える。 <事前学習>今までの授業を振り返る <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間

1 4	ケースカンファレンスの実際（演習）		<学習内容>児童養護施設の事例についてケースカンファレンスの演習を実施し、ケースのアセスメントや対応について考える。 <事前学習>今までの授業を振り返る <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問があれば、次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
1 5	授業のまとめ		<学習内容>授業の中で説明が不足していたところを補足説明するとともに、授業の振り返りを行う <事前学習>今までの授業を振り返り、わからないところをあげておく <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
1 6	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教職実践演習		飯塚 恭一郎		2	後期	演習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2310	
		担当教員	飯塚 恭一郎（実務家）、こども学科全教員					

【キーワード】		【概要】				
1 連絡帳	保育・幼児教育において、確かな実践力と豊かな人間力を備えた人材が求められる。本授業では、学びの軌跡の集大成となるように位置づけられており、質の高い保育実践力の習得のために、教員・現場の保育者・学生の三者による実践力の再確認を行い、自己課題を自覚、不足される知識・技能を補うこととする。また保育現場に出ることを想定した時に実習やこれまでの学習では経験できていない保育実践演習にも取り組み、保育者としての「即戦力」の向上も図る。具体的授業内容については、実際の保育場面を想定した保育者の協同的な保育計画の構想とそのシミュレーション、子どもの発達に応じた環境（物的環境、人的環境）を生かす保育技術（ピアノ・造形・遊びなど）、子育て支援に繋がる保護者との連携や情報交換に繋がる演習等に取り組んでいく。					
2 指導計画						
3 保育技能						
4 表現力						
5 実践力						
【到達目標】						
1. これまでの保育・教育実践を振り返り学びを深く考察することで、保育者の使命感や責任感を改めて自覚する。また、得られた知見をフィードバックして次の保育・教育の質の向上を図ることができる。 2. 多様な視点から子どもと保育について考察し、保育を再構成することができる。また、保育にかかわる人との連携や協同的な見地からも保育を捉えて計画することができる。 3. 保育・教育の課題を見出すや解決していく力、効果的保育を組み立てる力、実践における具体的知識技術などを多様な視点から捉え、その実践力を高めていくことができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度	課題・レポート提出	小テスト・実技・演習成果	合計		
評価割合（％）	25%	35%	40%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
提出されたレポート返却に伴い行う。検定は個別であるため随時回答する。						
【教科書】						
プリント						
【参考書・参考資料等】						
講義の中で紹介する。						

【関連科目】			
「実習関連科目」「保育内容指導法に関する科目」			
【受講心得】			
主体的に取り組むことを求める。本講義の目的をよく理解して行動すること。			
【備考】			
幼稚園課程必修・保育士課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 授業概要	(主) 飯塚 他 子ども 学科 教員	【学習内容】 本授業の概要説明を行う。 【事前学習】 シラバスから授業の流れを把握しておく。 【事後学習】 今までの実習を振り返っておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
2	授業展開説明	(主) 飯塚 他 子ども 学科 教員	【学習内容】 本授業の概要説明を行う。 【事前学習】 シラバスから授業の流れを把握しておく。 【事後学習】 今までの実習を振り返っておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
3 ・ 4	保育計画書作成演習 ① ー園外保育を主活動とする 保育計画立案演習ー	(主) 飯塚 他 子ども 学科 教員	【学習内容】 小グループに分かれ、園外保育を主活動とする保育計画を立案し計画書を記述する。また園外保育における子どもの引率やレクリエーションといった役割分担を決め内容の相談とシミュレーションを行う。 【事前学習】 園外保育についてこれまでの実習体験を振り返っておく。 【事後学習】 話し合いの内容を確認しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
5 ・ 6	保育計画書作成演習 ② ー園外保育を主活動とする 保育計画立案演習ー	(主) 飯塚 他 子ども 学科 教員	【学習内容】 小グループに分かれ、園外保育を主活動とする保育計画を立案し計画書を記述する。また園外保育における子どもの引率やレクリエーションといった役割分担を決め内容の相談とシミュレーションを行う。 【事前学習】 園外保育についてこれまでの実習体験を振り返っておく。 【事後学習】 話し合いの内容を確認し割り当てた自分の役割と仕事を整理しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
7 ・ 8	園外保育引率実地演習 ① ー園外保育の実地シミュレーションー	(主) 飯塚 他 子ども 学科 教員	【学習内容】 小グループ毎に保育者役と子ども役に分かれ、園外保育を想定して実際に引率や保育内容として園外でのレクリエーションの実演を行う。 【事前学習】 分担された自分の役割と準備をする。 【事後学習】 学習内容をまとめる。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
9 ・ 10	園外保育ドキュメンテーション ポスター制作 ー園外保育の様子を保護者に伝えるドキュメンテーションポスターの制作ー	(主) 飯塚 他 子ども 学科 教員	【学習内容】 園外保育実地演習の様子を保育現場で導入されている「ドキュメンテーション」の手法で保護者に紹介するための「ポスター」制作に取り組む。 【事前学習】 園外保育演習の様子や画像を整理する。 【事後学習】 他グループのポスターと比較する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
11 ・ 12	保護者対応について（連絡帳記述演習）①	飯塚 森	【学習内容】 動画映像教材を元に連絡帳を使った保護者とのコミュニケーション構築演習を行う。 【事前学習】 連絡帳の書き方について調べる。 【事後学習】 学習内容をまとめる。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間

13 ・ 14	保護者対応について（連絡帳記述演習）②	飯塚 中村	【学習内容】 動画映像教材を元に連絡帳を使った保護者とのコミュニケーション構築演習を行う。 【事前学習】 連絡帳の書き方について調べる。 【事後学習】 学習内容をまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
15 ・ 16	保護者対応について（連絡帳記述演習）③	飯塚 高口	【学習内容】 文章による事例を元に連絡帳を使った保護者とのコミュニケーション構築演習を行う。 【事前学習】 ここまでの連絡帳記述のポイントを振り返っておく。 【事後学習】 学習内容をまとめる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
17 ・ 18	保育技能検定 ① ー造形表現検定ー	(主) 飯塚 他 こども 学科 教員	【学習内容】 統一テーマで、身近な廃材や製作素材を利用して作品を製作する。 【事前学習】 製作方法に関する情報収集をする。 【事後学習】 修正箇所や新たな工夫を考案する。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
19 ・ 20	保育技能検定 ② ー造形表現検定ー	(主) 飯塚 他 こども 学科 教員	【学習内容】 作品を仕上げて完成させる。 【事前学習】 作品の仕上げの準備をする。 【事後学習】 改善点などを振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
21 ・ 22	保育技能検定 ③ ーピアノ、手遊び、絵本、健康・安全の 4分野の技能検定ー	高口 川崎 森 中村	【学習内容】 保育技能検定を実施する。 （手遊び・ピアノ・絵本読み・園生活） 【事前学習】 検定試験の事前準備や練習に取り組む。 【事後学習】 検定時の評価を振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
23 ・ 24	保育技能検定 ④ ーピアノ、手遊び、絵本、健康・安全の 4分野の技能検定ー	高口 川崎 森 中村	【学習内容】 保育技能検定を実施する。 （手遊び・ピアノ・絵本読み・園生活） 【事前学習】 検定試験の事前準備や練習に取り組む。 【事後学習】 検定時の評価を振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
25 ・ 26	技能検定再試験と健康・安全分野 「共通テスト」準備	飯塚 川崎	【学習内容】 技能検定の再試験と「共通テスト」に向けて試験勉強をする。 【事前学習】 再試験と共通テストの資料整理等の準備をする。 【事後学習】 テスト準備をする。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
27 ・ 28	健康・安全分野「共通テスト」と 技能検定フィードバック	(主) 飯塚 他 こども 学科 教員	【学習内容】 健康・安全分野「共通テスト」を受験する。 検定からの学びを整理する。 【事前学習】 テストの準備と勉強をする。 【事後学習】 検定時の評価を振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
29 ・ 30	保育技能検定の振り返り 実践演習のまとめ	(主) 飯塚 他 こども 学科 教員	【学習内容】 保育技能検定の学びを振り返る。 実践演習全体の学びを振り返る。 【事前学習】 実践演習で取り組んだ演習内容を整理しておく。 【事後学習】 実践演習の学びを仕事に生かすイメージを持つ。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 0.5 時間

【実務家教員】

フリガナ	イヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「保育内容（人間関係）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅲ」、 「保育・教育基礎研究Ⅲ」、「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育方法論		今村 隆信		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2311	
		担当教員	今村 隆信					

【キーワード】	【概要】
1教育方法	幼児教育の歴史的変遷、現代の幼児を取り巻く環境等を提示し、その分析を試みながら、幼児教育の難しさと大切さを把握したうえで、必要な教育方法を理論的・実践的に学んでいく。また、目まぐるしく発達・進歩する情報機器にも注目し、手軽に利用できるものを積極的に取り入れ、現場で活用するための基本から応用について指導等に生かせるように実践指導する。幼児教育の方法についての講義を中心にしながら、自分の考えをレポートする内容等も取り入れる。。
2教育原理	
3教育哲学	
4幼児教育	
5幼小連携教育	

【到達目標】	
1. 教育の目的を達成するための方法や技術を、具体的な実践の場面を想定し習得することができる。	
2. 枠組みにとらわれない自由な発想を培う教育方法を理解し、教育実践に結び付けることができる。	
3. 常に教育界の新しい情報を掴み、それを参考にしながらオリジナルで柔軟な教育方法を編み出すことができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験	受講態度等	ノート提出	合計
評価割合（％）	50	30	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
毎時間きちんとノートをとること。次週の初めに前回の学習をフィードバックし、本時のスタートとする。	

【教科書】	
必要に応じてプリントを配付する。	

【参考書・参考資料等】	
必要に応じて、授業中に紹介するが、「幼稚園教育要領解説」と「保育所保育指針解説」は必携とする。	

【関連科目】	
「教育原理」「子どもの心理学」	

【受講心得】			
事前学習のために、積極的に図書館を利用する。毎時のノート取りを原則とする。 毎時の終わりに確認テストを行い、理解の徹底を図ること。			
【備考】			
幼稚園教諭課程必修 保育士課程選択必修 幼児教育に関する時事問題を随時挿入していくので、日頃から関心をもって情報に注目しておくこと。			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の方向性 ○幼児期における教育の重要性 ○幼児教育の意義及び役割		<学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要を説明および事前事後の学習について説明する。文部科学省の「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の方向性」について理解する <事前学習>15回の講義要項（シラバス）に目を通し、全体の流れを掴んでおく。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
2	今後の幼児教育の取り組みの方向性 子どもの育ちの現状と背景		<学習内容>今後の幼児教育の取り組みの方向性を理解する。 <事前学習>本字の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
3	子どもの育ちの現状と今後の取り組み		<学習内容>子どもの育ちの現状を理解する。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
4	幼児教育方法論の歴史 ～ペスタロッチ、フレーベル、デューイ、モンテッソーリ～		<学習内容>幼児教育の方法論の考え方を海外の実践者の意図等を理解する。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
5	日本の幼児教育方法論の歴史 日本の幼児教育に関する法律		<学習内容>幼児教育の日本における考え方を理解する。また、関係の法律について理解をする。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
6	幼児期にふさわしい教育の方法 ～環境による保育のについて～		<学習内容>幼児教育の基本的な考え方・方法について理解する。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
7	幼児期にふさわしい教育の方法 ～遊びを通した保育の方法を考える～		<学習内容>遊びの重要性とその方法を理解する。。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

8	指導の立場と保育者の役割	<学習内容>保育者の指導の立場と保育者の役割の方法の違いを理解する。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって指導の立場と役割の方法を定着させる。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
9	幼児教育の方法としての保育形態 ～プロジェクト・アプローチ、チーム保育～	<学習内容>保育形態について理解することができる。 <事前学習>学習内容について、あらかじめ調べておく。 <事後学習>ノートを整理することによって保育形態を確認する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
10	幼児期の教育と小学校教育との関連 ～コミュニティ・スクールを考える～	<学習内容>小学校教育への継続方法とコミュニティ・スクールについて理解することができる。 <事前学習>学習内容について、あらかじめ調べておく。 <事後学習>ノートを整理することによって小学校教育とのつなぎの方法を確認する。 (事前学習) 2 時間 (事後学習) 1 時間
11	幼児教育における評価の方法 ～保育の計画と実践、保育の記録の生かし方～	<学習内容>保育の実践とその評価の方法について理解する。 <事前学習>学習内容についてあらかじめ調べておく。 <事後学習>ノートを整理することにより定着を図る。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
12	子どもの人権について ～困難を抱える子どもの支援～	<学習内容>困難を抱える子どもの現状とその支援について理解する。 <事前学習>本字の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
13	子どもの人権について ～優愛ちゃんのノートから考える～	<学習内容>子どもの人権規約を優愛ちゃんのノートから理解する。 <事前学習>本字の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>感想・意見レポートを書くことによって定着を図る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
14	様々な教材の活用と指導計画の立案 ～ICTなど教材の教材の活用～	<学習内容>ICT教育の内容や幼児教育への生かし方を理解する。 <事前学習>本時の学習内容の確認をし、指導案の内容を考えておくこと。 <事後学習>ノートを整理することによって定着を図る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
15	幼児教育の未来と課題	<学習内容>これからの幼児教育の在り方等について考える。 <事前学習>本時の学習内容の確認をしておくこと。 <事後学習>自分のグループの指導案について改善点を考える。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
16	定期試験	15回の授業を終え、授業理解の全体を確認する。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
医療保育		十時 美津子		2	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2312	
		担当教員	十時 美津子					

【キーワード】		【概要】	
1	生命の保持	病児・病後児保育、病気の子どもの医療面のニーズや倫理的配慮の必要性、疾病により日常生活に制限のある子どもの対応について、成長発達過程にある子どもの援助、医療チームの一員として業務の展開方法、病気の子どもと家族が抱えがちな心理社会的問題、医療保育のための環境を整える方法（感染症予防と主な感染症の対応） 医療保育の場における安全管理	
2	安全な生活環境		
3	心身の発達		
4	遊びと学習援助		
5	家族への援助		

【到達目標】	
1. 医療保育とは、その意義と役割を理解できる	
2. 医療保育のための感染症予防、主な症状に対する対応の仕方が理解できる	
3. 医療保育の実践の基本課題と倫理的立場を理解できる	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	提出物および受講態度	合計
評価割合（％）	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
講義の中で課題等解説し、課題レポートについてコメントの内容を確認し、再度見直しておく	

【教科書】	
『医療保育実践マニュアル』国立研究開発法人 国立成育医療研究センター編集 診断と治療社	

【参考書・参考資料等】	
『実践 保育学』帆足英一監修 日本小児医事出版社 『医療保育』診断と治療社『病気の子供の心理社会的入門』谷川弘治著『医療保育テキスト』日本医療保育学会 『発達がわかれば子どもが見える』田中真介きょうせい『病児保育』一般財団法人日本病児保育協会 英治出版	

【関連科目】	
「子どもの保健」「子どもの健康と安全」	

【受講心得】	
病児・病後児保育について、知識・技術の習得に努めること	

【備考】			
保育士資格選択必修科目			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	医療保育について		<学習内容>医療保育とは、病児・障害児保育の保健管理、他職種との連携、地域・保護者との連携 <事前学習>講義要項 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
2	保育の役割		<学習内容>医療保育における保育士の役割について生活の保障、生活環境を整える、心身の発達と安定、遊びと学習の援助、家族への援助 入院生活に適應できるよう他職種との連携 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
3	保育活動		<学習内容>保育活動をする上での留意事項（情報収集、準備、保育活動の実際、報告） <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
4	生活援助と家族支援		<学習内容>入院生活で、病所や治療により、様々な制限を要する子どもの、食事、排泄、清潔、睡眠などの日常生活援助 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
5	事故と安全対策		<学習内容>保育中に起こりうる事故と安全対策。インシデント、アクシデント発生時の保育士の対応と報告 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
6	保育記録		<学習内容>医療現場における保育記録、チーム医療を実践する中で他職種と内容の共有しやすい記録 <事前学習>テキスト <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
7	感染症予防と対策①		<学習内容>感染症について、予防できる感染症と治療できる感染症、感染症対策の基本 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
8	感染症予防と対策②		<学習内容>学校保健安全法、予防接種 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間

9	子どもの主な疾患と症状①		<学習内容>子どもの主な疾患と症状に対する対応 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
10	子どもの主な疾患と症状②		<学習内容>子どもの主な疾患と症状に対する対応 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
11	症状別保育支援①		<学習内容>各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
12	症状別保育支援②		<学習内容>各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点、配慮点 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
13	症状別保育支援③		<学習内容>各症例に沿って保育支援における、必要な情報をアセスメントし、保育計画設定、留意点、配慮点 <事前学習>資料に目を通しておく <事後学習>講義内容の復習 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
14	他職種との連携について		<学習内容>医療現場での他職種について、他部署との連携、チーム医療における保育士の在り方 <事前学習>テキスト、資料 <事後学習>講義内容の復習 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
15	まとめ		<学習内容>保育の基本、保育活動、生活援助と家族支援、保育活動中に起こりうる事故と安全対策 保育の実践（保育記録、症例別に見た保育支援）多職種との連携、医療現場における保育士教育 <事前学習>これまでの講義内容で学びを深めたい項目 <事後学習>課題についてまとめる (事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間
16	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅳ		豊辻 晴香		2	後期	演習 実技	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2305	
		担当教員	豊辻晴香、下木猛史					

【キーワード】	【概要】
1 研究	保育者には、必要な知識及び技能の習得にとどまらず、自身や保育・教育における問題解決に取り組むことも求められる。しかし社会に存在する問題の解は一つとは限らない。解に向けては、問題を明らかにし、解決すべき課題を見いだし、解決へ向けての多様なアイデアが必要である。本授業ではアイデアを見いだすための論理的思考力、チーム力を身につけ、さらに表現力を養う。本授業において身につける能力は、保育者として社会人として必須の能力である。その為の内容は、問題を取り上げ、解決法を文章まとめ、発表をする。
2 課題	
3 研究方法	
4 発表	
5 専門性	

【到達目標】
1. 保育・教育に関する学習や実習経験より子どもを取り巻く環境への課題について問題解決への思考力を持つことができる。
2. 保育問題解決に向けて、読む・書く・話す・聞く事的能力を高め、社会で必要とするチーム活動能力を高めることができる。
3. 他者へ向けて口頭、身体、文章、画像等により表現することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】				
成績指標	取り組み姿勢等	各活動におけるレポート・提出物	研究発表	合計
評価割合（％）	30	50	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
主体性 協調性	主体的に研究について考え計画し、リーダーシップをとり他者の意見も尊重し協調性を大切にしている	主体的に研究内容を考え表現し、他者の意見も尊重し協調性を大切にしている	自ら発言することもあり、他者からの働きかけに応じる姿が見られる	研究への参加が消極的であり、他者からの働きかけで活動することができる		
課題意識	これまでの学びを基礎とし課題を見出し、考えを深めることができる	これまでの学びを基礎とし課題意識をもち、考えることができる	これまでの学びを基礎とし、課題を見出すことができる	与えられた課題から考えようとする姿が見られる		
レポート	レポートの課題について、論点を整理し自分の考えを論理的に述べ、自己省察ができています	レポートの課題について、論点を整理し自分の考えを述べることができている	レポート課題について自分の考えを述べるができる	レポートの課題について、自分の考えを少し述べるができる		
表現力	研究内容等をさまざまな手法で表現し、他者に分かりやすく伝えることができる	研究内容等をさまざまな手法で表現し、他者に伝えることができる	研究内容等をさまざまな手法で表現し、他者に伝えようとする姿がみられる	研究内容等をさまざまな手法で表現する姿が見られる		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートや発表についてコメントを返却するので確認して返答すること。		
【教科書】 特に指定しない。		
【参考書・参考資料等】 講義の中で紹介する。		
【関連科目】 「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」		
【受講心得】 幅広い視野を持つ保育者・教育者を目指す志を持つこと。 チーム力が必要なため責任を持って取り組むこと。		
【備考】 保育士課程 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業概要理解	全員	<学習内容>当授業の目的と内容及び進め方について理解する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間
2 ①表現力を高める 課題調査	全員	<学習内容>他己紹介を行うために、知り合いの調査を行う。 <事前学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 <事後学習>本時の調査内容を振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
3 ②表現力を高める プレゼンテーション	全員	<学習内容>スライド、文章、口頭で課題を発表する。 <事前学習>取り組み内容を予習しておく。 <事後学習>発表方法での気づきを振り返る （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
4 読解力を高める 保育の問題に取り組む	全員	<学習内容>与えられたテーマについてまとめる。 <事前学習>社会問題を1つ読んでくる。 <事後学習>取り組み内容を振り返る。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 0.5 時間
5 ディスカッションの実施	全員	<学習内容>テーマの問題を見だし、課題を見いだす。 <事前学習>テーマについて調べておく。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

6	文献、資料収集の方法	全員	<学習内容>課題解決のための参考となる文献等の活用方法を学ぶ。 <事前学習>保育問題について調べる。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
7	①研究 テーマ設定	全員	<学習内容>関心のある問題に取り組む。 <事前学習>保育問題について調べる。 <事後学習>テーマ設定に際して再検討しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
8	②研究 課題の設定	全員	<学習内容>チームを組みテーマについてのディスカッションにより課題を設定する。 <事前学習>テーマについての一つ文献をさがす。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
9	③研究 仮説設定	全員	<学習内容>テーマにおける仮説を立てる。 <事前学習>文献を読む。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
10	④研究 調査	全員	<学習内容>研究活動の調査に取り組む。 <事前学習>文献を読む。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
11	⑤研究 調査	全員	<学習内容>研究活動の調査に取り組む。 <事前学習>チーム内で文献を読み合わせる <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
12	⑥研究 調査	全員	<学習内容>研究活動の調査に取り組む。 <事前学習>研究の進捗状況を確認する。 <事後学習>取り組み内容および学習内容を整理しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
13	⑦研究 結果のまとめ	全員	<学習内容>研究の結果をまとめる。 <事前学習>研究の流れを確認する。 <事後学習>調査内容を確認する。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間

1 4	研究発表	全員	<学習内容>取り組んだ研究について発表する。 <事前学習>発表の準備をする。 <事後学習>研究発表の振り返りを整理しておく。 (事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 5	振り返りとまとめ	全員	<学習内容>自身の研究の改善や他者から得られた知識の整理をする。 <事前学習>研究発表の反省を各振り返る。 <事後学習>当授業での学びを整理し、今後の課題を見いだす。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
絵画・造形		川崎 徳子		2	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2316	
		担当教員	川崎 徳子					

【キーワード】		【概要】	
1	玩具	子どもが発達に応じて生活や遊びの中でイメージを膨らませながら表現していく際の保育環境の重要性を考え、様々な用具、自然・人工の各種素材、手作り玩具等、子どもの遊びを豊かに展開する物的環境について学ぶ。また、児童文化財（絵本、紙芝居等）を制作し、その特性や効果を理解する。	
2	発達段階		
3	物的環境		
4	絵本		
5	紙芝居		

【到達目標】	
1. 材料・用具を適切に使用し、遊具・玩具の制作ができる。	
2. 子どもの発達段階を想定した工夫ができる。	
3. 子どもの興味・関心を考えた表現媒体の制作ができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	表現	技術	受講態度	合計
評価割合（％）	50	30	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
課題（作品含む）やレポートなどは次回講義で説明を加え、コメントを入れて返却する。	

【教科書】	
なし	

【参考書・参考資料等】	
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）	
『保育所保育指針解説』 厚生労働省（フレーベル館）	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）	

【関連科目】	
「子どもと表現」「保育内容（造形表現）」	

【受講心得】	
意欲的に参加、制作すること。	

【備考】			
保育士課程 選択必修			
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）	
1 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作①		<学習内容>企画・アイディアスケッチ <事前学習>事前に講義要項に目を通しておく。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
2 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作②		<学習内容>使用する材料の選択・試作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
3 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作③		<学習内容>アイディアの再考 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
4 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作④		<学習内容>制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
5 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑤		<学習内容>制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
6 発達段階を踏まえた手作り玩具の制作⑥		<学習内容>子どもの遊びの展開を想定しての互いの講評 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
7 発達段階を踏まえた手作り玩具の実演		<学習内容>子どもの遊びを通じた考察 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
8 大型絵本/紙芝居の制作①		<学習内容>制作方法の基本的理解 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
9 大型絵本/紙芝居の制作②		<学習内容>子どもの興味を考え、シナリオ作成 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	
10 大型絵本/紙芝居の制作③		<学習内容>絵割り <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間	

1 1	大型絵本/紙芝居の制作④		<学習内容>ミニチュア制作 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 2	大型絵本/紙芝居の制作⑤		<学習内容>本制作・台詞 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 3	大型絵本/紙芝居の制作⑥		<学習内容>本制作・演出ノート <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 4	大型絵本/紙芝居の制作⑦		<学習内容>本制作・演出ノート <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
1 5	大型絵本/紙芝居の実演		<学習内容>実践を踏まえての協議・改善 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。 <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
ピアヘルピングの基礎		豊辻 晴香		2	後期	講義	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2403	
		担当教員	豊辻 晴香					

【キーワード】	【概要】
1 ピアヘルピング	仲間同士が互いを援助し合うピアヘルピングの知識や心構えを身につけ、ピアヘルピングを実践するための力を習得する。それにあたり、カウンセリングの基礎（歴史・理論・技法）について学び、さらにカウンセリングスキルを習得する。
2 カウンセリングの知識	
3 カウンセリングスキル	
4 青年期	
5 パーソナリティ	

【到達目標】
1. カウンセリングの基礎的な理論や技法を説明することができる。
2. ピアヘルピングに関する基礎的な知識・スキルを説明することができる。
3. ピアヘルピングに必要なスキルを実行することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性					
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○					
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○					
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○					
【成績評価の方法】						
成績指標	受講への取り組み	クイズ	模擬テスト	合計		
評価割合（％）	30	30	40	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	クイズ（実施日が変更になる場合あり）および模擬テストの解説は授業内にて行う。					
【教科書】	『ピアヘルパー ハンドブック』日本教育カウンセラー協会編 図書文化社					
【参考書・参考資料等】	授業時にプリントを配布。また、参考文献等は授業時に紹介する。					
【関連科目】	「相談支援」					

【受講心得】 ・授業にはまじめに取り組むこと。 ・受講にあたっては事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。		
【備考】 ピアヘルパー資格 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション カウンセリングの歴史とピアヘルパーの意義		<学習内容>授業の進め方の説明と、ピアヘルパーの概要について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第1章-1を読んでおく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
2 ピアヘルピングのプロセスとパーソナリティ		<学習内容>ピアヘルピングの基礎となるカウンセリングの歴史等について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第1章-2を読んでおく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
3 ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル① 言語・非言語的スキル <クイズ①>		<学習内容>カウンセリングの具体的な技法について説明、実践する。 <事前学習>事前に教科書の第2章-1～3を読んでおく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
4 ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル② ヘルピング時に生じ得る問題への対処法		<学習内容>カウンセリング時に生じる問題への具体的な対応について説明、実践する。 <事前学習>事前に教科書の第2章・4～7を読んでおく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
5 ケーススタディ <クイズ②>		<学習内容>これまで学んできたカウンセリングのスキルを用いて、ピアヘルピングを実践してみる。 <事前学習>事前に教科書の第2章と授業内で配布したプリントを読み返しておく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
6 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 ～学業・進路・友人領域～		<学習内容>青年期の課題とピアヘルピングの活用について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第3章-1～4を読んでおく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
7 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 ～グループ・関係修復・心理領域～ <クイズ③>		<学習内容>青年期の課題とピアヘルピングの活用について説明する。 <事前学習>事前に教科書の第3章-5～7を読んでおく。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認し、疑問点があれば次回授業で発表する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
8 まとめ・模擬テスト		<学習内容>これまで授業で学んできた内容を振り返る。また試験に向けての対策も行う。 <事前学習>授業内で配布した資料を読み返す。 <事後学習>教科書や授業内で配布したプリントをもとに、内容を再確認する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間